May 18

女學雜誌

第二百十一號目次

社説 少年男女論 ○哲理人情
論説 家政學は女子敎育の要素なり
批評 女學雜誌、、目下の女子敎育法○敎育普及の順序、女子の責任○文學者としての福澤翁○大器果して世に容れられざる乎○朝と云へる詩○驅紳商檄
雜錄 胸中塵なし○僞りの歌○愛は變るとなし○懸賞答文○宮川靜井孃のこと(佐藤雄能)○嗚呼浮世○和歌の浦波(池袋清風)○きよめぬ庭○大人と爲らんには○文字と馬鹿もの(井上次郎)○家の手わざ
小説 野邊あそび
寄書 文學史の第一着は出たり(透谷)○敢て申す(破月子)○文明と詩歌との關係に就き女學雜誌記者に質す
開書 我儘せぬと(佐藤てつ)○交詢
時事 撰擧さわぎ○愛國公黨○賽の河原○町奉行と町人○文部大臣○モリス夫人貴婦人社會に基督敎を傳道す○女界新容○通信○廢娼記事
女報 女子の洋行○横濱禁酒會○伊豫今治○今昔の差

"Love had he found in huts where poor Men lie, His daily teachers had been woods and rills."—Wordsworth

社説 **男女青年論**の長篇を掲載しはじむ

論説 **家政論**は獨逸女學士ヂルクス孃の寄送に係る也

自今 **女學生**と云へる各女學校連合の新雜誌發行廣告

前號 **懸賞和歌答**は大ひに女文海を動す

五月三日發兌　第二百十一號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 211. 3RD, MAY, 1890.

EDITORIAL :—The Young Man and the Young Woman. Philosophy and Humanity.

LEADING ARTICLES :—Household Economy, an Important Element in the Education of Girls. (Miss H. Dierks.)

CRITICAL NOTES :—"The Jogaku Zasshi" The Present System of Educating Girls. The First Step in Educating the Mass. Woman's Obligation. Mr. Fukuzawa as a Literary Man, etc.

MISCELLANEOUS :—The Poet Sophistry and Poetry. Love Unchangeable. The Prize Essay. (Household Economy.) Miss Shigui Miyagawa. etc.

NOVEL.

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百十號目次

社説　風流を論す

論説　詩人と風景（雲峰生）○廢娼の精神及其順序（島田三郎君演説）

批評　加藤弘之氏の道徳○みさを（碓氷山人）○普通國文前編（雲峰子）

雑録　春遊亦平和ならず（華妹寄）○懸賞答文（路香女史）○豪傑はホームを切要す○貴婦人と貧民○不思儀の書を解明す（元良勇二郎）○結婚は人類の大倫○きよめぬ庭○荒庵（テニソン原作）○家の手わざ

小説　野邊遊び

寄書　淨るり節と學校（田中古象）○泣かん乎笑はん乎（透谷）

開書　容貌の事（佐藤てつ女）○交詢

時事　板垣退助君東京に入る○薙刀道○調和青年同盟會○價を作るもの後ふし○慈善有志青年諸君に謹告○廢娼記事

女報　女官の所得税○養育院慈善會○婦人修身會○華族女學校運動會○婦人衛生會○日本矯風同盟會○アッケルマン嬢○大坂師範學校女子部○婦人議員となる○女丈夫○ケンナン夫人○女子國會に入る

WOMEN IN JAPAN.

That Japanese Ladies have begun to be recognized as an important element in Society and respected agents is the great national progress may be seen in the fact that some of the papers repeatedly give accounts of interviews with those ladies whose names are connected with education, literature, medical art etc.

On the 22nd of this month an important meeting on the "Prohibition Question" was held at the "Meiji, Jogakko." There were about 40 gentlemen present among whom are well-known names as Proffessor Kato, Messrs Shimada, Yuasa, Kimura, Kojima etc. and a new organization, to be called the "Haisho Kwai" was instituted at this meeting and a committee of 9 gentlemen was elected to draw the constitution and by rules.

A new magazine called the "Joseito" (the Girl-Student.) is to be published from this off. It is to contain, choice literary productions of some of the best girls' schools with critical notes by the Editor. Criticisms by outsiden will also be courted, all intended for the greater progress and encouragement of the numerous students in those schools as well as those studying elsewhere.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百十一號 明治二十三年五月三日發兌

社説

男女青年論

一。吾人青年を愛重す

或る縁日に植木を買ひしとあり、一つは紅花爛熳として正に盛を極むるの花あり、一つは枯木やうやく春を含み枝の頭ら僅かに五つ六つの蕾を戴くの木なり、吾人價ひを聞くに植木屋の云はく、蕾あるは一圓也、花さけるは五十錢也と、奇しんで其不思儀なるとを詰れば、彼れ言譯して云へらく、蕾あるは後日に樂しみあり、花さきたるは最早此れ迄なるが故ありと、吾人聞て憮然三歎す。

それ今の英才は雲の如し、万朶の花天を覆へるが如く、社會の上流に只だ一面に廣ろごりて見ゆ、無數の數星よりも多し、國家は今や人物に富むと云ふとを得べし、然りと云へども總理大臣閣下は歳すでに五十二才にして、諸省の百官大率ね三四十を越えざるはあく、之より若きものも苦勞多きが爲めか皆な年よりも老けたるが如し、民間に於て少壯の有志家多からざるにあらず、左れど凡そ知名の士は皆な老成の人にして、其樣姿と其生計と其言ふ所ろと其安んずる所とを察すれば、彼等はもはや青年にあらずして老年あり、故に今日の日本は依然老人の手によりて管理せらるゝに似たり。

老人君閣下、吾輩は深く諸君の勞大ひなるとを謝す、然れども諸君は到底死なざる可らず、即はち其の馬車に乘るの一時、其意張り玉ふ折の一時、時は時を送りて日々夜々諸君を墳墓に近かしめつゝある也、諸君の花はすでに開きたり、今后は只其散るとの一日も遲からんとを欲すれども、左ればとて到底近き内に其散るの日なくんばあらず、吾人が諸君の爲めに待つは其之より開かんとするの日にあらずして其の將に散らんとするの日也、諸君の世はやうやくに過行かんとす、今后に來るべきは即はち青年なり。

老婆老翁の諸君、諸君は甚はだ親切にして、いつ迄も世の中の事に心配し、諸君あかつせば蒼生を何如にせんと自念して、鬢髮すでに白からんとするにも關せず倘ほ繁務に執着し、諸君もし世を棄てなば、子供等は後に遺されて途方に暮れるべしと憂慮し玉ふ、親切のほど辱けあしと云ふべし。

然れども此に諸君の爲に分り易き計算を呈し、些さか以て諸君が憂慮の万一を拂はんと欲す、夫れ維新の比には實に諸君

の如き豪傑なくんば世は治まらざりしとならん、然れども維新以來今日迄には既に二十三年になりしとゆへ、彼の御一新の日に呱々として生れたる赤兒にても、今日は最早二十有三の偉男子となりし也、諸君が維新の當初に密かに天下を見渡し、乃公出でずんば迚も致方なかるべしと思はれたるの當時には、成程實に諸君の外に人物はなかりしとなるべし、然れども爾來生れ出でたる赤兒は、其の襁褓の中より新文明の空氣を呼吸し、五才、小學に入り、十二、中學に入り、二十、大學を卒業し、今やすでに三年の經歴を了してアッパレの見識を具ふる青年も少なきにあらず。又た女子も之に伴ない初めより少々づゝは學問を仕たり、たとひ女學の大に勃興したるは實に近年にありとも、維新后の女性はすでに昔しの女とは余程に心得方を相違し夙に其心意を開發したり、如此き新日本の婦人は今年に至りて亦た二十三才となれり、天下何んぞ必らずしも昔しの女のみならんや、特に女學の初めて振起したるは明治五六年の頃にあり、現に東京横濱等に存する有名の宣教師派女學校は大抵此頃に於て創立したるもの也、而して其創立以來茲に入校して全科を卒業したる女生少なからねば、若し明治五六年より全く西洋風の教育を受けたりとせば、以來今日に至る十八九年の間だには、純然全く西洋に化したるの新婦人も極めて多きとなるべし、而して特に女學の尤も隆盛を極めたるの初めは、過る明治十六七年の頃にてありたれども、其以后今日に至る迄でにても既に七八年の星霜を經たるとゆへ、此間だに於て西洋文明の新學術を習ひ覺えたる女生の數多きとは實に意想外の事と思はる。蓋し其頃よりしては、三府五港は申す迄もなく、昔し一城廓ありしほどの地方には、大抵一つの女學校を設けざるとなく、たとひ良し學校と云ふ迄のものは出來ざりしにせよ、何々婦人會と云ひて日を定め細君會合し先進の講談を聞くと云ふの趣向は全國到る處ろに其設けあらざりしとなし、即はち一種の女學校にして古來未だ外に出でたるとあらざる婦女子に西洋万國の事情迄を知悉せしめたり、凡そ新らしきとは面白きとにて、面白きとは極めて覺え易きものなれば、婦人少女が如此き種々の方便によりて學び得たる事柄は實に莫大なるべし、故に維新以后の新文明は、歳々年々幾多の文明男女を創造し今や日本の國風は全く一大變したり、殿樣の行列は何如がなりしか吾人青年は今錦繪に據て見れども當日の實相を想像しがたし、六尺は何如にして駕を舁しか、赤合羽とは人間の事か、合羽の事か、若年寄とは何如なる老人にてありしか、殆ど細根大根の何如なる者かを想像し能ざるが如し、夫今の青年は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

斯迄に變化し、斯迄に昔しと縁遠くなれるに關はらず、今の先輩にして尚依然昔しを賞め昔しを證據にし昔しながらの心得にて万事を料理し玉わんとす、抑そも思はざるとの太甚しきものにあらずや。

故に今は青年の時代なり、よし今は青年の時代にあらずとするも、今后は必らずや青年の時代なり、故に吾人は今の老人方の何如ほどに氣儘を爲すとも、又よし何如許り大言を吐くとも、大抵聞流して念頭に掛けざるもの也、何んとなれば其先もはや甚はだ短かくして其の時代は到底久しからずと信ずるが故也、左れば尤も掛念すべきは今の青年にあり、尤も注意すべきも今の青年にあり、今の男女青年にして若し宜しきに歩まずんば、今后の日本はすでに亡國の機を兆するものと云ふべし、昔しカルチランの羅馬を奪はんとするや先づ其國の青年男子を腐らせたり、何んとなれば青年先づ腐るときは其國暫らくにして自亡するがゆへ也、又ナポレヲン大帝は、敵國を攻むるに當りて先づ其國の少女を視察したり、何んとなれば少女にして若し腐敗するときは一國の元氣亦忽ちにして全敗するがゆえ也、吾人が吾人の本國たる日本を觀るは之に異なり、然れども其の男女青年によりて國運をトふの熱心に至りては、彼等に優る實に數等なり。

今の通弊は、老成人が青年の心術情狀を承知せざるにあり、然れども之よりも更に大なるの通弊は、青年男女が互ひに其心術情狀を承知せざるにある也、青年の或る者は云く、嗚呼われ安こにか佳人を求めん、佳人は小說界に在り未だ我國に降臨せずと、少女の或る者は云く、嗚呼東洋にゼントルメンなし妾が一生を誰にか托せんと、於此乎彼は不滿足を忍びて敢て親父の世話をしたる嫁を貰ふ也、而して絕て天の一方に恨を呑むの佳人あるとを知らず、於此乎彼女は亦た一生を連れなしと斷念らめ、遂に情を消して西洋尼となり理想高きが故に止を得ず老孃となる也、而して眞箇の紳士は不幸にして浮れ女に伴居るとを知らず、嗚呼如此きは皆な男女青年が互ひに其心術情狀を承知せざるにより起ると也。

蓋し日本國に未だ嘗て淸き男女の交際あらず、故に男子は女子の眞情を知らず、女子は男子の誠實を知らず、その偶〻之を知るは不完全の方法によりて不淸潔なる相手の情を知悉するのみ、男子は遊び女の情を知り、女子は浮れ男の心根を知り、相互イスカの嘴の如くに喰ひ違ひて互みに欠點を見合ひ、而して双方われに知己なしと長歎するに至る、何等の愍れむべきとぞ、吾人少さか一言を寄せて兩者の爲に媒介を爲さずんばある可らず。

哲理人情

某先生つとに哲理を好み、多年深く之を研窮せり、一日大悟を得て、哲理は極めて平易凡俗の間だに存することを識認し、爾來道を邇に求めて探り收めずと云ふとなし、其の發して人に教ゆる所ろ着々實際に適せざるもの少なし、吾人常に其說法に隨喜す、故に近時感得する所ろの一二を左に筆記し讀者の三省に供ふべし。先生嘗て云ひけらく、

人の病根は、其眼に人間のみを見るの所より起るものあり、彼れ只だ人間のみを見るが故に、人間に賞められんとし、人間に崇められんとするの慾熾んになりて、之より樣々の我慢を生ずるとあり、然し能く〳〵考へ見よ、人間は万物の靈長にして成程尊ときには相違なけれどもその尊とき丈けには自分も亦同樣に尊ときものにて、彼と我と差したる相違のあるにもあらず、時としては彼れ總理大臣にて我れ門番なれば、役目の上には重き輕きの差別あるやうなれども、彼が總理大臣となるには、多くの由來あり亦其身に經驗もありしゆへにて別段彼自身が生れながらにして尊ときにもあらず、我れ今こそは門番を爲すとも、之より勉强すれば一代にて彼れと同じきほどに成れぬと云ふともなく、又よし成れぬとしても我の勉强を我子に遺傳すれば二代目にはあれ程の役人を造ると六かしきにあらず、何も本來彼と我との相違ふにもあらざる也、夫故門番は總理大臣に向つてかく〳〵のお辭儀を爲るものありと定まらば、式の通りお辭儀をすべし、お辭儀を爲たりとて自分が卑くゝして彼が高きにもあらず、役目の相違に隨がひ世の中が定めたる規則を行ふのみなり。

人間の過失は、人をエラ相に思ひて買ひ冠るの所より起るものなり、人間は五大洲中に左程に懸隔するものあらず、進化論を主張するダルヰンにても野蠻人を見て其開化人と異なるとの少なきに驚ろきしと也、よく〳〵世の中を穿ちて見よ、高名の人物にても親しく就きて話して見れば何の變り所ろも見えず、左りとて又た魚賣や薪こりに隨分名言を吐くもの多し、昔し西行は富士山に登らずして之を遠くより眺めたと云ふとあるが、富士山でも登りて見れば別に外の山と異るとなし、只だ少し斗り高いやうに思はるゝのみ也、世上の人物も大抵斯樣なものにて左して尋常の人と異ることなし、新聞紙で八釜しく評判をしたり、世間で大層に言囃すゆへ、陰で聞き居れば何如なるお人かと思はるゝなり、然し實際に話して見

れば何も非常の性質あるにも非ず、矢張り吾々同樣の者なり。夫れゆへ、人を賢しとして己れを愚かなりとすると勿れ、又た人間のみを目あてにして万事の賞罰を此の處に求ると勿れ、たゞ大道仁義を確認し、己れの爲すべき丈けを爲し、盡すべき丈けを盡し、其上は平々易々閑平として滿然獨樂すべし、五斗米の爲に腰を折らずなどと大言をするは未だ人間を重く見たると也、便利によりては官員になるも宜し、人の厄介にあるもよろし、左樣なるとにて己れが卑くゝあると思ふは己れの見識の尙ほ弱き證據也、我は何如に成るとも、又何如の地位にあるとも、いつも我の我たる處ろは變るとなし、只だ我が務を盡し、天地神明に恥づるとなき以上は綽々として餘裕を存し、快ちよく樂しみ樂しむべきもの也。

又た世上に利巧ぶる人多し、此ほど愚かなるものはなし、世の中の事は智慧にて出來るもの少なり、よし又智慧にて出來るとあるとも己れの智慧を現はせば人は負まじ劣るまじとそねみ怨みて反對すべし、斯ては決して物事の行はるゝものにあらず、哲學は何如に言ふとも、人間は則はち道德に伏するの人間にてあり、故に道德に據るにあらずんば何事も大成するものにあらず、方法を盡すとか、考へるとか、研究するとか、蛇の如く慧とくするとか云ひて、餘程に賢しこ氣に見ゆるものあれども、此類の人は尙ほ考が足ぬ人也、成程全く考へぬよりは宜しけれども既に自分の利巧らしき言行を他に見るやうにては則はち其の賢こさの未だ足らざる證據也、眞の賢人は眞の聖人にして眞の聖人の賢こき方法には、則はち至誠に據り、人情に訴へ、道德に循ふにあるなり、語に大賢は愚なるが如しと云ふとあり、一見愚なりと見ゆる人が眞の賢こき人にてある也、故に汝等決して智慧を先にすると勿れ、万事に德を先にせよ。

此教は道德家にのみ適用され、外の人には役に立ぬとなど思ふ勿れ、商賣を爲るにも、人に交るにも、戰を爲るにも、外交の懸引を爲るにも、此の智慧を用ひぬと云ふ所ろが則はち大ひに智慧あるの處置にてある也。

然しコセ〳〵と方法を運らし、世に所云る策士と稱するものとあり、万事策畧にて成就すると思ふものあり、此類の人は己れに大器量ありと心得居るとならんが、さて〳〵歎かはしきケチなる人物にてある也、斯る人は何卒度量を大きくし、所望を海大にして、常に人間のみを見ぬやうに、更に大ひなる所ろに目を着けるやうに致させたきもの也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世に失敗を恐るゝものあり、此の失敗を恐るゝものは遂に大成功なき人にて、ツマリ小さき所に掛念するより起るの病ひにてある也、固より事は失敗なきを可とす、然し凡そ正善正大の事業なる者には永遠の失敗と云ふとはあるまじき者也、若し夫其方法が宜しからずして出來損ひたらば其出來損じによりて一の經驗を増したるとこそ實は喜こぶべき筈也、斯の如きときには、其失敗の經驗を廣告し后人をして第二の失敗を爲しめざるやうにすべし、斯すれば其方法の悪しかりしとを試驗し其成績を万古の歴史に遺す者にて、人世を益すると至つて大なり、此時に當り甘まく其尻をかくしボロを世に現はさず巧に繕ろひて賢とくも仕合せを爲たりと喜こぶ者は、其度量の如何にも狹小にして又其人世を思ふとの何如にも輕薄なるとを證す、かゝる行ひは決して倣ふべき者に非ず。

人間の大成功とは、其人物を美にする事、其靈精を研くと、兼て其の大義務を盡し了るとにあり、故に日々夜々之に掛念し、少かにても徳を損すると思ふとは、斷じて擯斥すべし、人は誰れも弱きものにて初めは中々左樣に出來がたきもの也、然し一と度び勇を鼓して其道を試るときは、心中の爽快たとへんに物なく、一世の名譽よりも黄金の山よりも何よりもうれしきもの也、先づ日々其行ひを試みて見るべし。

金もなきに美なる衣服を着、壯なる家に住ふは、一種の見え坊也、然し殊更に粗衣茅屋に安息するも亦一種の見え坊也、名を求るも宜しからず然し名を隱すも亦一種の名譽家也、富を求るも面白からず然し金は入らぬと云ふ人も決して眞にはあらず、禪僧の如く悟を開くと云ひて世を棄つるは悪しきとなれども又常情（コンモンセンス）を知ると云ひて世の中にのみ沈淪するも人の本性に適するとにあらず、元來人間は上帝の眼の下、大道の流るゝ中、坤輿六合の一小點、永遠無涯の時の一瞬時に居て、其務を行ふものなれば、万事を自からにし、人に飾らんともせず、人を退けもせず、我と云ふ一己を固く握りて其本然の道を盡すべきもの也。と

吾人が聞ける幾多の説法中、上來記述したる數段の教へあり、目下世人只だあくせくとして世事に奔走し、絶えて閑日月を存せざるを見、氣の毒に堪へず、則はち聞けるまゝを筆記して讀者の參考に供す、もし夫れ此言の眞なるや否やに至つては、吾人今ま日常に守行經驗する所ろにして、窃かに其教へ の高大正善深く人情の至奥に適するとを確認し、隨喜雀躍して止まざる所ろのもの也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

家政學は女子教育の要素なり

學理を談じ花月に耽るを以て教育ある女子の模範となす可からず女子の天職尙他にあり一家を治理するは誰の任ぞや子女を養育するは誰の務めぞや徒に空理を說ひて庖厨の事を知らず漫に風流に陷りて衣服をも製する能はざる者我國教育ある女子の通患となす豈只た我國のみならんや西洋諸國亦既に此弊あり之を救はんが爲め近來家政學の一課を設け女子教育の一部となすといふ我國と云へども今日に於て之が救治策を施さずんば女學生たるもの常に社會より無用物視せらるゝに至る可し吾人は之を思ふ每に未だ嘗つて家政學の隆盛を希はずんばあらず女子を教育するの目的豈彼等をして空理を談ぜしむるにあらんや豈風流を樂ましむにあらんや社會に出て女子の天職を全ふせしめんとするにあるのみ、獨逸女學士ヂルクス孃此事につき一篇の書簡を投ぜらる今左に譯出して讀者の一覽を煩はし我國に於ても速に家政學の隆ならん事を祈るといふ

碓氷山人記す

二十七日

女子を教育するの方法素より多しされど之を一括して簡短に云はゞ女生徒の心をして常に高尙淸善の事柄に傾注せしめ卑陋汚濁の點所に思ひ及ぼさしめざる樣務むるにあり小人閑居すれば不善を爲す女子必らずしも小人ならねど其天性の所謂小人に類する所なくんばあらずされば爲す所なく見る物なきに至らば無益の考を抱き卑陋の思を爲す事往々にしてあるなり然り此無益卑陋の思想を防ぎ常に淸淨潔白幽谷の百合の如く天界の神使の如くあらしめんには如何なる方法に依るべきか曰く女子をして一樣無變にして倦厭を來らしむるが如き細事末葉にのみ心を止めしむる事なく異樣複雜の家政を爲さしむるにあり何となれば

家政上の事柄は千種萬類

にして常に新問題の出るありて他に心を移し若くは倦厭夢を結ぶの餘暇なければなり云ふなかれ家政は機械的の働きにして教育ある婦女子の爲すべき所に非ずと、其教育あると否とを問はず智無智に關はらず女子たる者は必らず家政學を治め一家を治理するの能力なかるべからず貴賤尊卑を以て家政學の要否を定む可けんや故に家政學を知らずば決して完全なる教育を受けたるものと云ふ可からずとは云へ余は單に家政學をのみ知る者を以て教育の完きものとはなさず世には未だ教育の何たるを知らざる父母ありて云ふ其子女に深く學問を爲さしむるの必要なし只宗教上の事を少しく辨へ家政と手仕事に精しければ即ち足れり深く學問せざれば

生意氣に流るゝの恐れ

なく甚だ安心なりと、されど是れ誤謬の見なり若高等教育なくば其愛好する所直に卑下に陷るなり細末に氣を勞するあり無益の思想を抱くに至るあり無智なるが故に時を無益に消費する女子甚だ多し高尙嚴格の教育を受けざれば後に至つて高尙嚴格の思想を抱く事なし思想陋濁卑汚なれば正嚴なる物に遇へば之を忌み深く思ひ長く注意すべき事なれば容易に倦む

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

青年女子は快樂を好む

者なるが故に其友人にして世路の險難に苦しむを見て自ら其險路を踏むを好まざるもの生ぜん而て世路に惱む所以を問へば即ち多くは未だ家政を知らざるが故なり家政學を學ぶの必要知るべきのみ女子若き時より其家庭にあり母を助けて家事を治むるは甚だ宜しされど其幼稚の時に當つては成るべく家事に預る事なからしむるを可とす蓋し誤つて器物を毀損する事あれば母見て默止する能はず其器物の價値を告げて後日亦過ちなからん爲め注意すべきを敎ゆべし他日其器物のとを思ふ毎に少女に不愉快を與ふる故に大に宜しからず加之幼少の時より物品の價値、金錢の出納など知らしむるはよき事に非ず故に幼少の間は金錢を與へざる方よろし幼き間は必要の物品を父母より給せらるゝが故に欠くる所なし而て未だ其物品の價値の高卑如何を知らず一錢の玩具を得ても一圓の物品を贈らるゝと同じく喜ぶ幼少の時代は、

無邪氣無慾清純白淨

にして恰も樂園にあるが如し此時に於て金錢の事杯を以て其快樂を汚すは大に忌はしき事と云ふ可し幼少の間は注意して其金錢の事に心を止めざらしむるも後に至つて容易に之を知るべし故に斯る事をなるべく敎へざる樣つとむべし金錢を與へて物を買はしむるよりは寧ろ一枝の花を摘て遊ぶ方宜しからずや蓋し斯る遊戯は甚だ清白無邪氣なればなり斯くの如くしてうるはしく幼稚の時日を經過せしめ少しく長ずるに於て始めて其母を助けて家政に當らしむべし其熟練する事速にして學校にて學び得たる家政學を實地に應用するを得べし其幼時に於ては快樂の內に無邪氣の日月を送り長じて後家政に預るは誠に女子の幸福之に過るものなしと云ふべし斯る敎育を蒙りし者は他日其子女兄弟を敎育するに當り金錢を與ふるより他の方法にて快樂を得せしむるの得策たるを知るべし而して其子女たる者亦猥りに金錢を得んと望まざるべしソハ母が

幼時の經驗に依て

金錢を得るの可あらざるを說く可ければなり倘强て望むあらば母は即ち容を正し聲を和げて云はん「我有する所は悉く汝の有なり殊更に汝の手に渡すの必要なし」と、余は貴賤尊卑の分ちなく女子たる者は悉く家政學に熟達するを要すと云へり何となれば如何なる女子と雖も早晚、

一家を總理するの任

を負はざる可からざればなり若家政學を知らずば其婢僕を使

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

用するの程度を知る能はず只夫れ使用するの程度を知らざるが故に或は殘酷の取扱を爲し或は不經濟の事を爲し過失交々生して遂に一家を治理する能はざるに至る、苟も一家を治めんと欲せば必らず家政に關する萬事を熟知せざる可からず充分家政學に通じ居らんには只に一家のみならず二家若くは三家の政務を治理するを得べし性來怜悧の女子は殊更に家政學をも修めずして家政に巧なるに至らんされど斯る人は常に充分の順序を整ふる能はず萬事に於て不安心なるべし而して家政にのみ時間を消費して他に爲す事能はざるが故に其夫に關する責任を熟知するの餘暇あく從て之を助けて其事業に充分の力を盡さしむる能はず人の妻たる者單に家政を爲すを以て其任を全ふせしものと云ふ可からず其夫に關する事柄は悉く之を熟知し全力を盡して其夫を助けてこそ始めて女子の任を盡せしものと云ふ可けれ殊に基督敎主義の敎育を受くる女子は眞正の「クリスチヤン、ホーム」を作り其夫をして喜んで家に止らしめ其子女をして高尚なる宗敎的の敎育を蒙らしめざる可からず之を爲す只諸學課を學ぶと共に家政學を修むるにあり故に云ふ家政學は女子敎育の要素なりと。

批評

女學雜誌、目下の女子敎育法

女學雜誌第二百七號に揭げたる「明治女學校生徒に告ぐ目下の女子敎育法」の一篇に對し、樣々の批評を爲すものあり、左に其の兩極を記るして、一斑を示し、併せて此の愚見に對しわざ／＼高評を寄せらるゝの人に謝すと云ふ。

大不同意

大學敎授　內藤耻叟

貴校敎育及び今后の方針拜覽を辱くし且つ是非の評をも致可旨承知仕候第一に劣生は死力を盡して基督敎を排擊するを以て終身の大事因緣と心得候者に付此事は大不同意決して御贊成不仕候もし彌よ基督敎を基礎とする學校なれば誓て排擊可仕候此段御答仕候以上。（圈點如元）。

女子敎育界の木鐸

「標準」紙上　矢　園　子

余は日本の基督敎外に名ある女學校は大抵外國宣敎師の手より成立つ故に、日本の女子に恰當なる敎育を施す能はざるを見て常に憂ひ居るなり、さるを明治女學校は、創立の時より幾多の患難ありしにも拘はらず、純乎たる日本人の手に成り、獨立獨步、毛頭も外人の輔助を望まざりしを聞き、是ぞ女子敎育界の木鐸なるを思意し、當初は微々として牛ヶ淵の邊に存在したるかの女學校が、はや九段坂を上り、今日の如き多望ふる有樣を呈せしを見て、心私かに喜ふ所ありき、斯て女學雜誌は愈該校の組織を世に明にせんと、其紙上に明治女學校生徒に告ぐとなん云へる社說を揭げて過方行く末の事ふど詳に論じ書して、殘す所なきが如し、余之を讀で其方法は兎もあれ、女子敎育の精神は斯こそあらめと只管稱嘆して止まざりき、殊に其末にマリアの友、及び文學會、學科外の實敎育、明治女學校の本願、今后の希望と題せる段を讀むに及んでは其言の丁寧親切逹せざるなきに感じ、覺えず、數滴の淚を紙上に落しぬ、余は未だ明治女學校生徒諸君の氣風品性等を見聞したるとなしとはいへ、斯る理想を有する學校の將來を預想して、いと賴母敷思ふなり、敎頭たる人の胸裏に充滿する、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

純潔、高尙、他愛、獻身の念は、日月の流るゝと共に、又生徒たる姉妹方の心裏に深く浸潤すべきものなるを信じて疑はざるなり、そも我國今日の年少婦女は舊去新來の變遷いと急激なる時代に遭遇し、其心中には、年長けたる父母たり兄姉たる人の、思遣る能はざる思念を抱く、彼等が肉體の父母兄姉は、彼等が心の父母たり、兄姉たる能はざるなり、彼等は實に孤獨寂寥の悲しき境遇に立つ者なり、アヽ誰れか斯る憐むべき婦人の思想感情の友となる者ぞ、誰れか父母となつて、彼等の心を導き、兄姉となつて、彼等の心を慰め、彼等をして、曠野に清泉を見出したる思あらしむる者ぞ、余は答へん、明治女學校生徒に告ぐと題せる文を草せる人ぞ、其人なると。

教育普及の順序、女子の責任

二三年前は何如なる人も女子教育に口を入れ、植物學者迄が本職を擲うちて之に從事したるの勢ひなりしが、本年となりては流行熱も大ひに冷却し、最初莫大の勇氣にて之に加勢したる客將だちも、今は一人二人、やうやくに散りつゝ行くを見る墓なきの時世に於て、角田眞平氏は新たに此社會に突進し來り、本月以來神田に一の女學校を創立したるのみならず、曩の日大日本教育會に於て一場の女學演說をすら爲されたり、吾人同會の雜誌によりて其筆記を見るに、雄辨滔々混々たるが爲めか、語脈散亂して殆んど大主旨のある所ろを捕捉しがたきの憾みありと云へど、要するに國に教育ある男子あるともし教育なき女子の多く共に存するときは一國全體の地位を高むるに足らず、則はち教育を普及するの必要ある所以にして、教育を普及するには學ばざるの女子に學ばせ、學びたるの女子に其學力を失わしめざるにありと云ふものゝ如し、而して此目的を達するの方法は、各地各所に平易なる普通女學校を設立し、其近邊の女子をして自由に入學せしむるにありと云ふに似たり、果して然らば之れ尤もなる意見と云ふべし。

文學者としての福澤翁

福澤諭吉君の經世論には感服する者多けれども、其文章を悦こぶに至つては具眼の人の外には殆んど見ることなし、國民之友第八十號は、細かに其因緣を解剖し、福澤流文派の妙所長所を化學者の分拆するが如くに分拆したり、既に遺憾なきものと云ふべき也、然れども其文章は無神論的の文章にして、凡そ高きを低くし、勝れたるを野にし、高尙なるを凡俗にするの所ろに於て其妙を存し兼て其毒を含むと云ふべし、吾人時に之を愛讀せざるにあらずと云へども、國家の元氣民人の道德の爲めには此流の文章を嫌ふこと少なしとせず、今や民友氏の筆によりて此のウナギ文法の妙味を廣告せり、心なき摸倣者が亦た續々と之に眞似んことを恐れ、先づ此文章文法の實は最高の種(シナ)にあらざることを忠告し置くもの也。

大器果して世に容れられざる乎

元良勇二郎君は尋常迂遠なる哲學者にあらざる也、近時其の大器决して世に容れられざることをなしの一篇を草したるを見て、いよ〳〵之を確認すべし、然れども吾人は必らずしも此の論文に服するものにあらず、凡そ曲れる穴に直ぐなる棒を突き入るゝときは、穴を崩すか棒を折るか、二つの中何れか害を受けずと云ふことなし、然れども世は多く曲れるものにして之を矯めんとするものは僅々一二人にてあるを以て、預言者改革者は大率ね身を殺さゞること稀れなり、之れ即はち世に仁を爲す最后の方法にして、一死漸やく頑なゝる當世を動かすことあるもの也、君もしキリストの末路を見ば、大器决して容易く世に容れられざるの實相を識認するを得べし。

朝と云へる詩

近來の詩歌に新思想のもの少なし、偶ま之れあるも多くは純潔卓高の象に欠けたり、日本評論第四號に揭げたる「朝」の歌の如きは、近時出色の高吟と云ふべき哉、第一節、夙朝の風景を叙し。第二節、朝氣爽快、雄思勃々の狀を寫し。第三節、東光暉々、万の懷疑悉く霧散するの幸はひを謝し。第四節、如此き光景、想へて冷々たる唯物界に自生すべきにあらず、必らずや天に上帝ありて榮光を洩すものなることを觀じ、末段、多望多信の句を以て結ぶ、一讀亦た朝氣に接するの心地す、今の歌人にして若し續々如此き吟咏を出すことあらば、日本のうたひものも亦た精髓を一變すべし。

驅紳商檄

「日本」は當世の諫官なり、其紳商を驅るの檄、末節に云く、

嗚呼米價騰貴して細民飢に泣き、金融壅塞して貧買窮を訴ふ、皆な紳商即はち博奕商の間接及び直接の罪なり、民業外に伸びず國力內に衰ふ、國を誤まるものは紳商なり、國を賣るものは紳商なり、後世日本國を亡すものは其れ此の紳商ならん、紳商は國民の共敵なり、紳商除かざれば國振はず。

壯語堂々、眞個に慨世の文なり、吾人全く同意す。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜録

胸中塵なし

契仲阿闍梨

連歌せず歌をもよまぬ其人の
　さこそ寢ざめのきたなかるらめ

詩歌に心よせんには雪月花の時に、琴詩酒の友、或は雲井遙にほとゝぎすをまち、或は枕に近ききり〴〵すを聞、常なき事をねざめにし、夢にたとへ、かぎりある世を殘れるともし火によそへて、一首をつらぬれば、松の風吟をそへ、鐘の聲和をなせり、かの名をゝとしても利を得んことをむさぼり、身はこになひても富を求めんを思ふことがらは、うかべる雲胸の月をかくして、にごれる水の進をこして、守錢の奴いとゞまどろむことをえじ、たとひ儒教を習ひ釋典をまなべども詩歌とたづさわらぬ人は胸中つひに塵俗をはらわずして君子の跡三千里を隔てゝをひがたく關上の道五百驛にさはりてつかれ安し。

僞わりの歌

かすみ

賀茂眞淵が云ひけらく、古歌に、

苦しくも降りくる雨か三輪が崎佐野の渡に家もあらなくに

と咏みたるは、まことに旅行人のあはれさ打ち聞たるだに身にしむ許りに覺ゆるに、後の世の人此歌をもて、

駒とめて袖うち拂ふ影もなしさのゝ渡りのゆきのゆふぐれ

と咏みて侍るはよき歌と云ふにつけて、そう〳〵しきやうに覺ゆと。實に然ることに思はる、后の句のやうにては、何となく其景色の面白げにて、所云る其雪の夕暮を見まほしきまでに覺え、元の歌の旨と苦しき心を寫さんとしたるとは大ひに違ふと也、凡そ如此く誠を咏出でずして万事を風流氣にもてなし、物事を直ちは直言せずしておかしく曲げあいしらふとは、是れ抑そも神聖なる詩歌を翫あそぶの初めにして、則ち詩歌を墮落せしむるの一大元因にてある也、歌躰約言に曰く、

後の風の歌はおのが心にも無きあさましうたはれたるを或はむげにおろかなるとなどを珍らしきさまに言ひかなふるを旨とし侍るほどに心はすなほにせざるのみか害をさへ得ぬべく成行めり。

實に今の作り花の如き僞わりの歌は、寧しろ鬼を動かして人の心に魅入らしむのの媒とこそあるべけれ、他に其效あるまじきもの也。

愛は變る事なし

ミ、子、

人は天より愛を賦與せられぬ故に愛なき者は完き人と云べからず而して愛は永遠に變る事なし是心理學に照して明かに知らる、女子婚すれば其躰容必らず變ず是其夫の愛に依て感化せらるゝが故なり而て其夫の愛は永く變らず女子が一度離婚し再嫁して後生む所の子女先の夫に似る事往々あり、下等人種に於ても尙然り黑人一度白人に嫁すれば後黑人に婚するも尙純粹の黑兒を擧げず或人甞てオーストラリヤを遍歷し一奇事を觀察しぬ其話に云ふ彼國の土人甞て白人に嫁して子女を擧ぬ然る後其土人に嫁せしが亦子女を得る事なかりき云々ダーヴヰン亦云へり曰く某地より斑ある牝馬を英國に輸入せしが其生みし所の馬子に斑點を存せしといふ是等は皆最初に嫁せし夫亦は牝馬の愛性永く其妻或は牡驢の上に存するの確證といふべし其他女子の婚して後躰容の豹變するの實例甚だ多し其肉躰容貌の上に於てすら尙且然り

況んや感化を受け易き心靈に於てをや豈相互間の心底胸奧より發する愛情にして永く他人の腦裏に深染せざるべき、余輩の觀察する所によれば是只に女子に於てのみ然りとなさず男子もまた婚後其躰容性質に變化を來す、故に年老ふるに從ひ夫婦相似るに至る此に於てか俗諺あり曰く「似たる者夫婦」と、彼等が世路を渡るや苦樂を共にし眠食を共にし境遇を同うするが故に相似るに至るものあるべし然れど其相互の變性せし大原因は其心靈上の感化と云はざるべからず蓋し彼等は共に笑ひ共に悲しみ一人快樂を感ずれば他是に化せられ一人悲哀に沈み涙滴つて他の膝を濕さば共に悲まざらんとするも得ず是に至つて夫妻は一身同躰なるを知る、既に同躰なり肉落ち躰枯るゝも其心靈上の愛の消失する事やある故に云ふ愛は變する事なしと。

懸賞答文

中點　昱子答

在東京の官立女學校を卒業なせしもの〻一人にて候。

迂妹に於て第一の益と存じ候事は字を敎へられ大抵の和漢の書を據べ得る迄に至りし事なり次に家政學、裁縫、禮式、博物、物理、化學、數學、作文學、等に候。

然ども兎に角精神的の敎育を受たると僅少にして器械的に高

倘の學を授けられしも實用的の學に疎き故之を使用するの力なく反て其爲めに徒に心身を勞使せられ而して其結果とし云はゝ我こそ學者なれと日はぬ許の高慢心を得て得意然として揚々反て其天職を忘れしめ我も人なり彼も人なりと途方もなき境界に迄思想許は至り反て女子の天賦の職を爲さんとするに至れば實際に間に合はず長き星霜を積みし螢雪の苦も無益なりしと思ふ迄の失望の點に一度は陥らしめしは是非もなきことながら遺憾限りなし希くは當路者の愛兄姉樣方何卒後來迂妹の如き卒業生の出でざるよう御注意あらんことを。

迂妹學窓を出でゝ以來右の如きの感を久しく持ち居りしも現今は神の恩惠を蒙り始めて盲者の光を見し心地致し傲慢の心は挫かれ何卒眞の天職を辨知し卑賤微弱の者なれ共倘國の一小分子なれば應分の力を竭して其義務責任を成就致し度と日夜焦思して最も幸福に安全に大能の力に依頼して勵み得る樣に相成申候。

評。悔改のお言葉、心得違ひの女生を戒しむるに千万の雄辨よりも優る心地す、教ゆるものも教えらるゝものも、此を讀み味ふときは益多かるべし。言葉質素にして、考へ甚だ佳なり、必らず中點を得玉ふべきの答となす。

下點

相生子の答

拜啓陳ば貴社雜誌の女子の爲めに實に有益なる事は今更申迄も無御座候得共分けて此頃は種々有益なる事を懸賞に掛けて御記載に相成候御熱心の程感佩謝するに申上やうも無之候私不肖を顧ず差出し候先月の答文御採用に相成誠に汗顔の至りに存候此度も又自分の心に思ひし丈を又憶面もなく差出し候間至らぬ所は宜敷御敎授願上候。

女學生出校して后學びたりし學科何れが尤實效を奏せしや

答　人々學びたりし丈は何事でも有効に候得共最も讀書、作文、裁縫等が實效を奏すで有ませう。

又婦人は貴賤を問はずおもに他家え嫁し舅姑への仕へ方家を圓滑に修めて行のが女子の本務私は十二才の時親に分れ繼母の手に人となり他に同胞も無之故入夫を迎へて家に居升が夫ですら圓滑に家を修めていくには隨分困難ですこれが他に嫁したらばさぞと察し升神戸のとほくめ女史の御說の通り學生の内は左樣な事は夢にも知らず嫁して初めて非常の困難を致候就て甚私の考は無理かも知れませんが嫁して舅姑に仕へ家を圓滑に修めていく處の敎へを實驗のある方が學校で敎科に加へてお話しをして下さるやうにしたならば婦人の爲めには

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

實に有益であると考へ升これ學窓を顧み教科の上に付ての思想であります。

評。御經驗を聞き、同情の念切にして、亦た多くの女學生の事を思ひやり、坐ろに落涙します、女學校に於て其心得方を一々教ゆるとは固より大切ですが、其心得の方法を一々に教授するよりも、心根の基ひを有德にし、深く女德を養ふやうにするが肝腎と存じます。答文甚はだ宜しけれども、言ひ足らず思ひ至らざるところ無きにあらず、頗ぶる遺憾の事となす、故に殘り惜しくも之を下點とは爲しぬ。

宮川靜井孃のこと

專門學校　佐藤雄能

山形縣下鶴ヶ岡町に宮川某と呼べる人あり士族の常として家計は豊ならず巡査となりて近村に勤めるが氏は老母と妻と三人の子供を持てり家族多しといふにもあらねば其友人などは家族を引纏めて任地に連れなばよからんなど勸めし人もありし由なれど氏はかくては子供の教育によろしからずとて困難の中にも己は不便を忍び一人にて勤めたりしが氏の老母は至て慈愛の心深き人にて能く孫の教育に心を用ゐ妻なる人も夫の心を受けて家事に力を盡す傍に姑に事へ子を育て夙に起き夜半に寝ね機を織りて家計の助となし衣服等は少も飾ることなく己の樂を取ることなどは絶えてなく外に出づるは只毎月一兩度實家を見舞ふのみなりされば近隣にては譽めぬものなく先年奥羽新聞にも其行狀を譽め掲げられしといへり氏の子供の中二人は娘にて一人は男子なり長女は靜井といひて今年十四才になれり祖母及兩親がかゝる心掛にて教育せしものから學問の進歩も著しく其上行儀も正しく小供の常にて近隣に遊び廻れど實に行儀よく應待ぶりも至て愛らしく多辨は女子の癖なれど同人は決してかゝることなくさりとて又めゝしきにあらず常に母の仕事に手傳ひ又は弟妹の看護をなせりされば近隣にて誰一人譽め愛せぬものはなかりき同人は其地の朝暘學校に入學し居りしが學業も優等にて品行も正しきものから常に其級の首席を占め教員諸氏もかゝる良生徒は開校以來珍らしといひ同級生は勿論全校の生徒皆同人を見習ひ教員も亦宮川氏を摸範にせよと教へ居りしとぞされば縣廳又は郡役所などより度々褒賞を得し內又た昨年の春莊內三郡尋常科四年生の比較試驗を行はれしが同人は其中の第一番となり又々多くの賞品を得たり同七月に朝暘校にて免狀授與式を行ひしが同人は男女三百余人の同級生中第一番となり教員生徒は勿論郡長町長を始め數百人の參觀人が列座せる中にて尋常科卒業生一同に代りて謝辭の如き簡短なる文を讀みしが平生愼み深き一小女は更に臆せる色もなくいと爽かに讀み上げたれば列座の人々感嘆の外なかりしといふ此日式場に出づる時祖母及母はいと名譽の式なれば見にくからぬ衣服を着せて出席せしめばやと思ひしも心に任せぬは家計にて先つ年の拵へたるは丈短くなれりと心配せるに靜井孃は垢つかず又は破れずは如何なる着物にてもよしと先生に聞きたりといひければさらばとて其をきせ出したるも陰に心を痛めたりと祖母及母なる人にありてはさることながら只美麗なる衣服を着くるも成績が劣等なりしけば却て恥づべきことゝいふべし靜井孃は此日亦學校よりの賞品及有志者の寄附にかゝる多の賞品を賜はりたり然るに此に一の困難を生じたりそは同人は其後高等科になりければ授業料より其他の入費も少からず且其弟妹も遂に成長して學校に入ることになり其上昨年より物價は次第に騰貴しければ家計は愈不如意となれりされど同家にては如何にもして小學を終へしむべしと思ひ居りしが親族中にてかくてあらんよりは女子などには尋常科にても卒業せば不足なかるべし且は年も十三にもなりぬれば家計の助をなさしむべしと勸むるものさへありきされど父なる某氏は女子に教育は入らぬなどゝは奇怪なりいざ余はかゝる迷夢を覺ましくれんとかの教育小說稚兒櫻などを母と妻とに讀み聞かせとも〴〵に力を子供の教育に盡し居れり此に鶴ヶ岡町の一財產家にて商工人中にても錚々の聞えあるものなり此人も教育にはいと熱心なる人にて且は義氣に富める人なりければ此事を傳へ聞き其近隣の人を賴み靜井孃が卒業迄の授業料其他の教育費を補助せんと申込みしに同家にては他人の補助を受くるなどは不本意なれどさりとて現在の有樣にて且は折角の好意を空しくするも如何がなればとて止むなく之を受くることにせり近隣の人は補助する人も補助さるゝ本人も感心なれどかゝる良き娘を持てる兩親が羨ましといひ合へりとぞ補助せし人は固より名を貪らん爲ならねば只近隣の人に託して送るのみにて姓名をば言はざる由教育せし人教育されし人補助せし人實に三幅對ともいふべき感心なる人々といひつべし此の記事をして此に終らしめば實に喜ぶべきことなれども如何にせん此の後は涙を拂ひて記せざるを得ずかの靜井孃は

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

平生至りて健康なりしが昨年の暮よりヒシン病にかゝりたれど格別のこさなく學校にも通ひ居りしに遂に腎臟炎兼心臟痲痺に變じ家族の看病は勿論地方の良醫さ呼ばるゝ人々に委頼し療養に手を盡したれど天命のなかりしものにや先月二十日十四の春を一期さし將に開かんさせし蕾空しく無常の風に散されぬ其祖母及兩親の愁歎はいふまでもなく知るも知らぬも之を聞き傳へて惜まぬものはなかりしさいふ葬式の際には同級生は悉く之を寺院にまで送りしさいふ又兼て補助し居りし人は此の際も若干の香奠を贈り宮川氏にては靜井孃が嘗て賜はりし蒔繪の硯箱を其人に傳贈せりさいふ此事忽ち山形新聞社の知る所さなり細に其行狀を同新聞に掲げられたり其後宮川氏の縁者より同社に謝狀を贈り且朝暘校教員生徒のことを記載せんことを望みたる全文を掲載有りしが今其文中を拔きて左に掲ぐ(前略)只憾らくは靜井が教養を受け彼女が氣質を陶冶されし朝暘校教員及生徒が深情友誼の世に類しきを御記載なかりしことのみ心殘に候望蜀の情今更止み難く聊一二御報道に及び候間萬々一餘白もありて御記載の榮を荷ふこともあらば老生の欣喜此上に越すものハ是れなく候靜井臥床に着きし以來絶えず同校職員生徒等は見舞に來られ最悃切に學校に關する日々の出來事を話し病苦を慰め懇情溢るゝ許に是あり候瞑目後三日葬禮を營むに當り同級女生徒一同燒香に來り門に入るや否や泣涕進む能はず漸く棺槨に近くに及び最早慟哭座に堪へず投ぐるが如く身を倒し燒香をも得なさで戸外にすべり去り候始末引續きて高等第二年生仝三年生仝四年生女教員等來られたるも其狀前に異らず殊に女教員の如き棺に寄りて悲泣せらるゝ狀は親身の姉妹兄弟も及ふ所にあらず賤心なき會葬者も餘所の哀に促されて湧酌まぬものなかりき偖埋葬の時はいふを待たず初七日には同校高等科生徒一同墓參し墓前に合掌悲泣して殆低回顧望去るに忍びざる狀にて愛情の濃なる紙筆の盡す所にあらず候爾後今日に至るも香花薫烟嘗て一日も墓前に絕ゆる事なく雨風陰晴同校生の墓參を見受けぬは是なく候(下略)此文によりても靜井孃が平素教員生徒より愛せられ居りしを知るに足るべし偖又同校の人々が此くまで睦しきさは眞に感じても餘りあることゝいふべしかくてこそ眞の師弟の間柄さいふべけれ願くは我全國の學校も皆かくありたき事にこそ因に記す朝暘校中の女生徒は現在七百八十餘人にて教員中女子は十二人ありさいふ。

嗚呼浮世

なみだ

昔し傳道者嘆じて曰く「空の空、空の空なる哉都て空なり日の下に人の勞して爲すところの諸の動作はその身に何の益かあらん世は去り世は來る地は永久に長存あり日は出で日は入りまた其出し處に喘ぎ行くあり風は南に行き又轉りて北にむかひ旋轉に旋りて行き風また其旋轉る處にかへる河はみな海に流れ入る海は盈るとなし河はその出で來れる所に復還り行くあり萬の物は勞苦す人是を云ひつくすこと能はず………我日の下に作す所の諸の所爲を見たり嗚呼皆空にして風を捕ふるが如し云々」、嗚呼浮世大夢の如く人事水泡に似たり得々揚々駟馬に鞭ち四邊を叱咤し天下を睥睨するものあり弊衣縕袍住むに家なく食ふに食なく風宿露餐して以て世を終ふるあり然れど數十年を出でずして等しく北邙山巓一片の烟と消し去らんのみ富貴羨むに足らず貧賤憂ふるに及ばず只吾人の憂ふべき所は終生汲々として風を追ひ泡を握るが如く世人事業に齷齪し未だ嘗て遠永不朽の心靈上に思ひ及ばざる事なり嗚、呼浮世！人事皆空にして風を捕ふるが如し世人何ぞ空事にのみ汲々たる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

和歌の浦波

池袋清風

案山子迺舍京都第四社中

市邑立春

但馬出石　湯谷礎一郎

、豐なる（賑はへ）民のかまどの烟にも立つとはしるし春のはつ風

評豐なるでも惡しきにあらず唯秋穫の頃の感あり　賑はへるは仁德帝の歌よりぎはひよけりとあり春華の情あれば也

野梅

、冬枯れて尾花そよげる（春さもしらぬ）故里の野中にひとり匂ふ梅が香（の初花）

評尾花は初冬の木枯に殘なく吹散らされてあるべし又假に殘るさしても綿の如く柔なるものなれば竹の葉や蘆の如くそよぐことさふし尾花多き所に風のあたる時は一種異なりたる音するもの也點者幼時の詠に物すごき音ばかりして秋の野の尾花吹きこす夕あらし哉

雨中梅

うちしめり霞の中ににほふ哉伏見の梅の（林の）春雨のころ

評梅の春雨さは續かず梅の代りに所の名を用ひなばよろし

案山子迺舍東京第一社中

立春

青木まさ

、あけわたる（さきはな）天（空）のみどりも今朝よりはのどけき春の色に見（出）にえけり

山家立春

、山陰の賤がわら屋の垣根にも（まで）心のどけき春は來にけり

、、山畑の麥も雪間に見えそめて賤がわらやに春風ぞふく

上野京都第三社中
礒　貝由太郞

海邊立春

、、朝つく日きらめく影もうち霞み春になりぬる（なよせく）須磨の浦波

、ほのぼのと（長閑にも）佐渡の島山（遠）霞む也越の白根も春やしるらん

評ほのぼのさは霧や夜明の景也

春鶴

、君が代の千代田の松になくたづの影も（聲ののどかにも）雲井に霞む春かな

評鶴は日月の如しそは松にある其影は雲井にかすめば也

折にふれたる

、あれあれし（て見）日枝の（あたご）高根は（雪）いかならん東の里の（空に）春のはつ風ぞふく

評春風ふけば日枝の高根に變化が起るやう也

、、朝日影のどかになりぬ谷ごしのわら屋の雪もうちけふりつゝ

評此處谷ごしのかはりに小山田でも岡のべでもいはるゝ也　歌は一詞一音も動かされぬが名吟のよし

梅

木村祐吉

、白妙の雪かと見ゆる（のこぼれし枝の）梅の花手折らば散らん心地こそすれ

山家梅

和泉岸和田
京都第三社中鈴木　左馬次郞

、雪どけのしづくも絶えぬ山里（邊より）ににほひそめたる梅のはつはな

評しづくさいはゞ楷のやうにて里の心ちせず

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

谷梅

、咲にほふ（あまりにも）梅のにほひのゆかしさに
谷間ふかくも入りにけるかな

評咲にほふにほひさ重ねて此處穏ならく宜しからず

雪中梅　　磯貝由太郎

、消え殘る（長閑にも）雪うちけふる麥畑に朝日かすみて梅が香ぞする

評ふたつのる耳にさはれり

水邊梅

、蘆原の氷もとけて川そひの（山澤し）小笹のうち（堤がくれ）に梅が香ぞする

評小笹のうちにさいひては梅は小笹よりも小さきものゝやう也

蘆間寒鳥

、冬枯の氷るわしまに白妙の羽かけも（鷺立つ）寒く水鳥のなく（夕まぐれかな）

題しらず

、手折られぬ花としるゝさまゝに心つくして見るぞ悲しき
或人の身まかりしを聞きて

、やがて又（さらてしも淺茅が）露の命と消えん身に今年もふくか秋の初風

海上立春　　番外女社中　神戸　川本辰子

、沖津なみうちもおごみてけさよりは
春の光をたゝえけるかな

隣家梅

、我窓の竹の下風かをるなりとなりの庭の梅やさくらん

きよめぬ庭　其十

酒落齋主人

大内の舞樂

そも歌舞の道と云ふは、大古天照大神の、天の石窟に入り、石戸を閉ぢて入ませしとき、天が下晝夜の區別なくなりもて行き、いつも烏羽玉の暗とありしかば、八百萬神等、神集爾集比賜比、神議爾議賜比氏、天女鈿命といへる女神、天香山の天日蔭を鬘とし、天眞折を手繦に繫て、小竹葉を手草に結ひ、手に鐸著たる矛を持ち、槽覆て踏とゞろかし、歌舞たりと云へるより始り、後にいたり、欽明天皇の十五年、百濟より樂人施、德三斤等數人を朝貢として奉りしより、外邦の歌舞音樂と云へるもの傳り來て、此の道盛みなりもてゆき、終に公の祭祀にも吾國、外邦の歌舞を用ゐることゝあり、其昔にても、大嘗新嘗の大祀、官祭諸社の神事等より、正月十六日踏歌の節、同廿日の女樂等大内に於きて歌舞をぞせさせける。

されば世に所謂舞樂の如き者のみならで、神樂、催馬樂、東遊、散樂の如き者、下つ方にも流行り來て、城隍神の祭、盂蘭盆會の訝皷戯など何くれとなく有、洛北修覺寺の題目躍り、北岩倉の燈籠躍り、或は神風の伊勢躍りは、松坂の音頭に其名高く信濃

なる岐岨おどりには、巴山吹も出づ可く、山脊の念佛おどり、紀の國の齋家おどりなど、擧ふに遑あらず、歌舞音樂の盛ありしこと、伊藤伯の内閣總理大臣たりしときに比ぶ可くもあらず。

葵の靑葉德川の流に茂りし頃は、田樂より移りにし、能樂と云へるもの切りに流行り、外山（寶生）結崎（觀世）坂口（金剛）圓滿井（金春）等の四座の流今も遺り居るなり。夫よりは歌舞伎、狂言の如きもの、唄、淨瑠理の如きもの、出來て、今の世には、いとも盛なる劇場も少からず、此の道の爲、博識を以て稱ふる學者さゑ、力を盡すに到れり。

あだしごとはさておき、天皇のいまだ西京に在せし頃、大内におきて、年毎の正月十六日（或は十五日又は十七日）、歌舞なん行はせられ、月卿雲客はものかは、都鄙の差別なく、民の樂むところを樂しみ給ふ、大御心を辱なしとて、舞樂の庭に處せき迄居列びて、今にも歌舞の始まれよかしと待居たる。さて定めの時刻も來りければ畏れ多くも紫宸殿の上に一段高く、美しふ御簾の下りたる内には、時の御門御坐まして、蒼生の健康に、今日の御遊の筵の末に列りたるを、見そなはしまして、龍顔いと麗しく在られしとぞ、田舍の老爺などは、老の心のいともろく、涙と鼻汁の交りて垂るゝを、人に知られて、拭ひもあへず泣くめれ、宮仕へし給ふ女房たちとて、なにかは妾の美しきよ、よも勝るものあらじなど、つくりたてたる市の女なんど、さま〴〵にして觀居たり。此方に居たる田舍はふりらしき男は、始めて京に登りて、内裡を拜みしことのありがたさよとて、日常習ひ覺えたる、中臣の祓うなり出して、高天原爾神留坐、皇親神漏岐、神漏美乃命以氏と云ふに、ふたりの人等の、どつとばかりに笑ふもをかし。かゝるうちに舞は始まりぬ、先づ定めの演舞の終りしのち、皇帝破陣樂、蘭綾王、萬歲樂、靑海波、還城樂長慶子などもありつ可し、よくは覺へず。さるからに其日の舞樂も果ければ、こと〴〵く日の御門より出てゝ歸るめれ。此の中に混り居たる京童の一人「樂を知らない者は、あんなものを見ても面白くもなんともないナ、舞樂と云ふのはほんとに妙なものダ、只同じ樣なことを繰り返し舞つてばかり居て、すこしも臺詞を云はないが、アレは何したのダ」一人「あれかあれは双方ともに中違ひをして居るからサ」「中違ひと云ふはなぜヨ」「それは前に劔の舞をした時分に鐺とがめをしあつたげな」。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大人と爲らんには　しのぶ

大ひなる人と爲らんには、靜かに考ふるの時多からずんばあるべからず、アリストートルも然か云へり、孔子も然か云へり、ポールも然か云へり、實際の世間皆な亦如此く證しす、夫れ日々忙々營々として只だ衣食業務に奔走し、馬車の馬の只だ向ふをのみ見るが如く、鐵道滊車の只だ一線路の外に出でざるが如く、夜々日々ひたすらに同じきとをのみ繰反すに於ては、人間遂に器とならずと云ふとなし、君子苟くも器たるまじくと思はんには、時あつてか靜かに慮ばかり深く已れを穿鑿して其の長所短所を發見するとを要す、大學に云く、靜かにして后ち安く、安くして后ち慮ばかり、慮ばかつて后ち道を得と、余は今人が只管らに騷ぎ廻るを見て、悲しみに切なり、諸君須からく安息の重んずべきとを知るべし。

文字と馬鹿　井上次郎

高き考を書現はすに特更ら六かしき文字にてあらざるとも事濟むあり、英國にて母の懷ろより寺の墓場に至る迄で一生涯になみ〳〵の人の知り用ゆる言語は大率ね五百に過ぎず、世に名高き文學者とても常に使ひたる言の葉は思の外に多からぬあり、サッカレーの用字は五千、ラシンの古文字は千五百、ミルトンのは七千なり、其の尤も多きは蓋しシェクスピアか、彼は凡そ二万一千を用ひぬ、然し乍ら今の日本の如く少なくとも二三万の漢字を知らずしては學者らしくなしと云ふに至りては、さて〳〵學生の迷惑少あからず、之と共にかゝる世間は餘り賢こしとも思へぬと也。

家の手業　にはとりの家舍　天知翁

第三家禽舍。の構造は種々改良築法ありと雖ども、一牡七八牝を容るゝに足るものは手造りの小舍にて費用の少きものを考へざるべからず、固より地質の乾濕に由り構法異なるべしと雖ども、要するに夏季は炎暑を避け、冬季は陽光を舍內に受け、空氣流通能き所を撰むべし、故に乾燥なる南向き或は東向きの地を撰定し、奧行五尺、間口五尺、高さ六尺許の舍を構へ、先づ四隅に丸太を打込み、其先を二尺五寸許地上に現はし、此上に板張りの鷄舍を安置す（此舍は南面に開閉戶を附し、舍內には二三尺の高さに止り木を設く）然ときは鷄は此舍下に遊びて、炎熱、風雨を避け、又これに砂、灰、等を土と混じ撒布し置けば鷄の砂浴するに便あり、而して又害獸等が地盤を穿ちて舍內に襲入するが如き危險あるとなし、此舍の四方には無雙窓を設け、炎暑の候には空氣を通ずると

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を忘るべからず、若し又南向なる家屋の軒下に空地あらば、此所に前法の如く設くべし、之れ家根と壁板とを節略するの利益あるものなり、又餘地あらば鷄舍に接續して其表裏に放飼塲を設くるを要す、其廣さは舍の間口と同樣位にて、長さは可成擴ぐるを可とす（十數間以上）、而して其西北部には常綠樹即ち樫、杉、椎等を植へて寒風を防がしめ、又南面及び塲内には梅、桃又は矮小なる樹木を粗植し、暑を避け鳶鴉等の襲擊を防ぐに備ふべし、此前後の放飼塲は交番に用ひ、一方を使用する間に軟草菜類を蒔付け（其鷄糞を肥料とす、其法は常に鷄糞を掃き集めて、堆積し塵埃等を混じて古莚等にて覆ひ置き熟するを見て土に混入す）、又は濕氣ある古莚等を覆ひ置きて蟲類を生ぜしめ、時を見て此所に放飼し、交々絶へず此の如くなすなり然る時は鷄は皆喜びて啄食し、互に嫉妬喧爭することなく、愉快の運動を彼等に與ふることを得、其「ホーム」圓滿幸福にして産卵多かるべし、又鷄舍は時々、懇ろに掃除を怠ることなく、舍内には常に新しき藁を一隅に備へ置くを可とす、春夏の候に至て、羽虫の非常に繁殖する者は、之れ冬間掃除の不行屆より來るなり、故に常に掃除せし後、一週間一回乃至二回は、石灰又は硫黄花を撒布するを宜しとす。

小説

野邊遊び（第六）

ゆかり

人世僅かに五十年榮枯盛衰悉く夢の間に過ぎ行けば人の命を朝顔の花に立つ白露と喞ち、名望富貴忽然として消へ行けば嵐にさそはるゝ花とて歎く、げに高きも賤しきも富めるも貧しきも憂世の羇に繫がるゝ上は淚の降ぬ袖はありません、幼心にとし子はよう〳〵今日の日迄知らざりし悲しみと云ふものゝ味を知りました、西ケ原の事は思ひ出すと何となく心がふさぎふさいで來ると跡は口惜しくなつて終りはこれも淚です、それに自分では人が病氣になると死ぬと云ふ事を聞て居ますから今日迄もつひぞ寢た事のないとし子が此の一月計りの病氣に唯だ死ぬだろうと思ふ念が深くなつて人に遇ふと死にますからどうしてのこうしてのと云ふようになりますしかし死と云ふものはどのようなものかよくわかりませんが愛する兩親の手元をはなれ親しき友達なぞと遠かる事かなどゝある時は考へますがその時は急にかなしくなつてたまりません、西京へ父が十五日計前に公用で旅立をしましたがその時は今より余ほど病ひが惡かつた時でした、父は出立をば好みませんでしたが公けの事に私事を以て辭する譯にも行かず

また日延と云ふとも出來ず、心配しながら出かけました、出がけにとし子の枕元へ來て十五日ほど經てば歸るから待て居ろと堅く手を握りながら云はれたのがとし子の胸のうちに深く彫り附けられました三日目位に必ず手紙が來ますとたゞ半紙半分の忙しそうにどくあらくかいてあるものでもそれが病中の幼子には何よりの慰でした、今日もそのうれしひ手紙を顏を見ても震へるほどに思ふ信切な母親の手から受取りました、さだめし東京へもう御歸りあさると云ふことが第一番にかいてあらう、そして御歸り遊ばしたら御みやげやまた何處へか連れ行くと云ふような樂しひ事が——先刻迄は死ぬと云ふ下心何も御みやげは欲しくないと云つた者が——かいてあると思ひの外開て見れば京都より四國の方へ趣く用事が出來て今三週間は歸られぬとの事計り心まちに待て居た父の歸りが遲くなつたのみでなく外に何の言葉もありません、今迄心の中にあつた悲しみの種がこの手紙によりて一層力を得て來ました、

おつかさん、

オヤ、ドーをした、御前泣て居るのではあいか、何が悲しひのだへ、

デモおとう樣の御歸りがのびましたから、私はがつかりしましたの、ナゼ御用が出來たノダロー

何故と云て仕方がないやネ、それに御前が少し病氣がよくあつて朝夕庭などへ出ますと此間も書て上たもんダカラ御安心なすつて、それで四國の方へ御まはり遊ばしたのだろう、三週間と云へばもう直だからそんなに失望せずともよいはネ、おぢさんもいらつしやつて下さるし五郎さんもおよしさんも來て下さるから、ネ、なぜそんなに泣くのだへ、こまりものだネー

チイおとし、なに泣く奴があるものか、もうじき御歸りにあるノダモノ

時に表より下婢のお芳が

奧樣御醫者樣が御出になりました

病者の枕元を取かたづけなどし居る間、とし子はよう〳〵涙を止めました、其日は熱度が三十八度位でしたが別に醫者は何とも申しません仁田の叔父も夕刻迄話しをして居りましたが長くなる故立歸らうとする頃熱度が又三十九度位迄登り病者はいたく苦しげです、其夜は仁田も心配で一宿をしましたが翌朝は熱度も大に減じた樣子故母親は枕元によりて、

今朝は少し好いようダチ、氣分はどうだい夕にひきかへて樂な樣あれど顏色も十分ではあく食氣もありません、朝醫者が來て診察をした跡一間の內に仁田を招きドーモ、御熱氣が增しませんとよろしふ御ざいますが唯今のうちに防ぎを十分につけませんと焮衝を起すようになりましようかと心配をいたします、先刻申上ては置きましたが急に何で御ざいます變でも參りますと、ハイ、どうも御熱氣の具合が……チト……

醫者の言葉に家內中は大心配です、出來る丈に手段を盡しましたがドーシテモ熱氣は夕方にあると增す摸樣です其夜も苦しみましたが翌朝になると、とし子はつかれた聲を出しておつかさんおとう樣は

寄書

文學史の第一着ハ出たり

透谷

鬪屋正巽氏の手に成りたる小說史稿は兎に角日本文學史の第一着手なり。吾人は氏の史稿に於いて甚だ失望する所なきにあらず、然れども是は敢へて氏に責む可き所ならず、却て氏に許す可きは氏が此の事業に一鞭を着け以て吾人を勵まし、且つ吾人をして大に據る所を得せしめし事にあり。今ま歐洲の歷史は文學史の討究によりて局面を一變せんとす、眞正の內部將さに從來の外部と共に照然たらんとす。文學は空漠たる想像より成れるにあらず、實は「時代」なる者の精勉して鑄作せる紀念碑なり是れ吾人が前に開かれたる一大卷の吾人をして讀解し尊敬せしむる者にあらざらんや。徒らに著書の新古を鑑し、著家の系統を尋れ、其品行を說き、若くは古代の暗室に入りて其著書を探り、其文學家の行跡を一二古書の中に求むるが如きは文學上の古物家をして敬重せらるゝ人の業のみ。世願は今は眞正の歷史家あれかし、奮つて此大業に從事する者あれかし、一の時代には其宗敎あり、志想あり、哲學あり、外邊あり、其根性あり、其種族あり、是等の者を觀察し究明するは文學史を編む者の任なり、テイン氏言へるあり、其の中に動物あるが如くに記錄の中に人あり、其を說いて以て動物を論ずるは非なり、記錄を說いて人を言ふは尙ほ非なり、唯だ須らく內部に入る可しと、眞正の批評を歷史上の文學家に加ふるにも亦た此の觀察力に據らずんばあらず、要するに歷史の最純なる者は是を文學史に求めて得べし、而して文學史を編む者は此の大活眼あるにあらずんば能はず。誰れか眞に今日の日本を知る者ぞ、誰れか眞に昨日の日本を知る者ぞ、又た誰れか眞に明日の日本を知る者ぞ、多くの政治家あり、議論家あり又た國粹家あり、而して眞に日本なる一國を形成する原質を詳かにする者は稀れなり、其人民の性情を窺はんと欲するが如きは絕へてあらず、此に於いて余が文學史を望むの情一倍して來る、余が小說史稿を讀みて感ずる所斯くの如し。

敢て申す

破月子

我は純潔なるホームを造らん、我は文筆を振て文壇を一新せん我は慈善の務を盡し孤兒寡婦の友たるべし、我は學理の蘊奧を極めん、我れは敎育の任に當らん、我れは道德を以て社會の矯正を事とせん、嗚呼美なるかなこの理想余は正實に諸君が希望の成効を祈り、諸君の力諸君の健全諸君の信仰諸君の勇氣其終りに至る迄繼續維持せん事を望むで止まざるなり、余は旣に堅く諸君を信ず然り諸君が社會に全勝を奏せらるゝを信ず然れども時に利と不利とあるを如何せん、正義公道を唱ふる者必ずしも其社會に於て容らるべきの人に非ず、カルバリー山上の血、陳蔡原頭の貧窶よくこれを證すべし、よし我れ等が唱ふる主義に於て世人のこれを攻擊批難するも諸君が不撓の英氣ありて勝を遠世に期せらるゝに於ては容れられざる何ぞ疚ましき所あらん諸君果してこの精神ありや、社會は諸君が女學校樓上の机に倚りて考想せし如きものには非ず、世上幾多の才子賢人は千仞の古穴の如けん、毒烟を漲らせ暗黑の威を逞ふして諸君を待てり、世の義人聖人は饑虎餓豹の如くならん、吼聲雷の如く鋭牙を練で諸君を伺へり、艷麗芳香の薔薇花刺棺多し、甘味舌を溶すの蜜巢亦毒刃あり、世は諸君が理想せるもの〻如きに非ず、

唾して先づ爲さんとする切要の事務は賛助する者案外に稀なり、諸君が得んとして務めらるゝ正當の特權これを讓るの人又少なし、諸君は如何にしてこの艱難なる行程を歩まるゝか、余は諸君の爲めに殊に憂ふ諸君よくこれを忍び得るか或ひは絶望悲倒して止むか。嗚呼女流の先進者よ、既に世にあるの人よ、社會に女子の務を爲さんが爲めに全力を盡すの人よ、君等を歡待せし社會が今日君等に對して前日に異る所なきか、君等が前日の預定は今日相應ずるを得るや否や、其純潔なるホームは何處にあるか、其文章は君等の意を滿せしや、君等慈善の業は幾許の貧者を助け得るや、君等の學術はこれを用ゆるの處ありや、君等が教育は世人の果して賛助する所なるか、君等が道德は如何程に社會を矯正し得たりや、敢て示せ後進女流のために、其結果を、其苦心と、其決心と其勇氣と、其耐忍と、其希望とを未だ浮世に風霜雨雪を知らざるの友よ諸君は前進者に從て歩むわ可なり、然れども君等が決心わ前者に優れざるべからず君等が社會を看るの眼前者に比して明かならざるべからず、時に利と不利とあればなり、唯だ進め正義公道によりて、其爲す所力なきが如くとも、其勉むる所成功を期しがたく思はるゝも歩一歩の内に必勝あるを信じ毒惡の社會に、僞善の巷に、よく榮光の光りあらしめよこれ實に諸姉が任なり。

文明と詩歌との關係に就て女學雜誌記者に質す

三田寓　S. S. 生

世の追々開け進むに隨ひて歌よみ詩作る業の益々衰へ行く事に就ては何人も一致する所ならんと思ひつるに近頃以ての外の奇論こそ出てにたれそを我等が平生宗敬的の修文家として殊更畏敬する女學記者となす記者は閨秀大詩人てふ題目の下に最も光ある一篇を物せられ無慮數千言を陳れて世は信仰より出てゝ懷疑の時代を經遂に復もとの信仰に歸すべければ今日の昔日より此道の衰へたるを見て直に此先もしかあらんなどと假初めにも想像して落胆すべからずとの旨意を擴へられぬ仲々の妙筆月さへ日さへ掩へ暗まさるゝはかりなれば一通讀の下には余も亦記者の説を信仰する外能はざりしされど無明は永久の現象にあらず再三味ひ見るに大に非なるを悟りたるぞ是非もなきよりて左に不審の廉々を書き立てんに第一信仰より出てゝ信仰に入るの説は余も頗る同感なれど第一期の信仰と第三期の信仰とを捕へて全く同一物なりと見做し玉ふは何たる僻事にそや昔の人が理も非も知らず雷は天道の怒り玉り時の音聲にて雨は上帝の涙なりなど何物にても分らぬものあれば輙ち之を名付けて鬼神の作用といひて只管敬畏信仰復疑はざりし時の信仰と後の世に至りて不可思儀の世界漸く縮小し唯僅かに十分達したる理學にて探究し得ぬ事の外信仰すべきものゝなくなりたる時の信仰とは其間に髮一筋の差のあらぬ事にや少しにても比較斷定の能力を有する人にてあらば小兒の信仰と大人の信仰との間には廣狹大小の違ひあることを直に發見し得べきが如く野蠻人と開明人との信仰の間には此れと同樣の差額のあることと深き考を須いずして知り得んされば信仰を土臺とする詩歌の區域の從て減ずるも勿論の事にあらずやさるを信仰としいへば何れも同じ種類のものと速了し此誤りたるを前提に置き來て今後一度詩歌の極樂を見るを得るべしなどゝ斷定するは聊か弘法の筆の誤りならずや」之れに加へて詩歌が文明の進むに從ひて是非衰微に赴くべき證據を擧けむに大凡そ草昧の世に在りては事物を概括してこれより一つの通法を描き出すことを知らず其智識とする所單に各事各物にありければ其簡單なる事は一線の系にも勝りつべく又其淡泊なることは水にも比ふへう見えて此無邪無雜なる腦中より偶然に出てたるものが往々後の人をしてあはれ絶代の名作と迄に稱へしむる事なるは諸學者の普く傳唱する所なるが今後世理學發達の社會を考ふるに以上とは全く反對の景況を呈して思想は總て復雜となり智識も大方概括的とならん此時即詩歌の名作早く既に跡を絶つの秋にしてこれが上に用字は總て論理的の確實なる意味を持てるものに限りて使用を許さん全躰の意味の如きも一々論事矩に照し合せらるゝ事とせは從來意味の意流用字の模糊たるによりて生ぜられたる詩歌必需の興味は俄然亡失するの觀をや生せんずらんかゝれば何れより見るも詩歌は今後益々衰へるの傾きあるはこれ迄に其傾向を見しと同一樣なりと信ずるも誰れか爲めに反對の證據を擧けて余をして却て城下の盟をなさしむるの名譽をや獲るを得ん

唯それ詩歌がかくの如く今後益々衰勢に赴くべければ詩人歌士を造るの必要も亦益々增加すべく「ミルトン」もこゝに至りて愈其名聲を發揚せられざるべからざることなるが其之を奬勵するの必要ありとて强て今後に詩歌の繁唱すへき時代ありといふは恰も吾人は我國を商業國となさゞるべからざるの必要ありとて我國が今後自然に商業國となるの傾ありと論斷するに等し天下いかでか此の如きの非理を容るべき若し多感なる記者が豫言せらるゝ如く眞にかくなり果つるものとせば我等は今日に於て餘り熱心に詩哥を奬勵するの要を見ざれど既に前にも述べたるが如く到底衰勢に就くを免れされは今後に於て益々之を奬勵するこそ最も必要の事といふべかむめれ余は記者と同しく閨秀大詩人の出るを俟つに切なるのみならず何れの性何れの類の詩人の輩出も甚た願はしく思ふと同時に記者の説に就而は聊か一致せぬ所のあるを免れず此事に就ては少しく持説のあらぬにもあらねば何れ他日再び記者の深愛によつて紙上に見へ思ふ所を陳べて大方の教へを仰くことゝしてこゝにはこれにて止め置き唯疑團の一二に就而記者のさかう返答を得まほ有しく思ふになむ行文の蕪雜にせよ且つは敬儀を失へるを怒り玉はず幸に今少しく難涙の出べき教へを賜はれかし。

謬に物の置き樣にも其れ相應の術ありさ妹は此度我儘さ云ふ事に付きて申上度さ存じ候故此手紙の題を我儘せぬ事さ云へる方却て聞こへよろしく候間其方を撰びて我々如何に致さば我儘ならざる樣相成るか少しく御話し申上度存候聖書の中にはキリストすら自から悅ばす事をせざりきさ有之候が此の一言は妹の我儘ならざる事を勉むる時の最善き勵ましさ相成候故貴孃方にも此言葉の同じく益あらん事を望み候キリストは我々に步むべき道を敎へんさす此世に來り玉ひたれば私共勉めて主に傚んさする時には必ず御助を與へ玉ふ事疑ひ無之候、

開書

我儘せぬ事

橫濱フヱリス女學校 佐藤てつ

貴孃方には吾儘なる人さ云へば最惡しき人の中に數へられ貴孃方に對して我儘などゝ云ふ事を申上ぐるは不敬の至りさの御考へ有之やも量りがたなく存候得共此くあるは未だ貴孃方の御年若く被入るゝ故にて御年功を積まるゝに從ひて(自分)さ云へる言葉の意を味はるゝならんさ存候最早年老ひたる人々の中にさへも「自分」さ云へる言葉が如何に勢力あるかを悟らざる者數多有之候」我儘ならざる事さは如何なる事にて有之候か明らかに解釋致す事俄に出來不申候得共畢竟我欲を制するさ云ふ事に御坐候、

或る時妹は一人の敎師より聖書の中の善きサマリア人の譬即ち一人の旅人盜賊に傷られ路傍に倒れし時祭司の長さレビの族の人通りたれども二人さも此の旅人を見過して去りしに後サマリア人來り此旅人をいたはりて己が馬に乘らせ旅宿屋へ送り行き其費用までも拂ひし事を題さして演ぜられし說敎を聞候らひしが敎師の此譬より敎へし事は時機に遭遇して人の性質を知るさ云へる事にて有之候妹は其れより常に心懸居候處實に些細の行にも其人の心中相顯はるゝを發見いたし候或る處に公立の書房ありて何人にても來りて書籍新聞を讀む事を許され居候處其處に居る一人の男は新聞の積み重れたる上に肘をつきて新聞を悉く押領して一人にて讀み居候故他の人々も此の人さ同じく自由に讀む權あるに一々格別の斷りを申さればならぬ樣に相成候妹は此の人の祈禱會にて立派に勸告などを致せしを見受け候故此の人は善き人にてキリスト敎信者なる事疑ひ無之候併し此の如き所置は我儘ならざる事に候や」又同書房には一人の婦人は夕飯に行く時自分の讀み居たる新聞を卷きて窓の戶の後に隱し置候此れも我儘ならざる所置さ申され候や」又或る夏の日暮頃數人の子供路傍に遊び居候處向より身には實に汚れ破れボタンも悉く取れて小き身躰を覆ふ事能はぬ程の衣物を着したる貧しき一小女來り候時子供等は此の小女を嘲り笑ひ酷き言葉などをかけ候折から一人の美はしく愛らしき婦人は身には雪の如き潔白の衣を着して彼處に立てりしが此の憐れなる小女を見兼之れを家に呼び入れ自分の室に連れ行きて手づから針をさりてボタンの落たるをつけ綻たる所を縫ひ汚きながらも身躰を覆ふ丈につくろひて歸し遣られしを目擊致し候其れは誠に些小なる事には候得共此にて婦人の愛らしき性質相顯はれ此の婦人さても此の如き汚き小供に手を觸るゝ事を好み物ずきになしたるには無之其證據には其後婦人の手を洗ひ居るを見受け候然し其時婦人の眼には云ふに言はれざる喜び顯れ候此婦人こそは自分を悅ばす事をせざりし人に御坐候、

貴孃方には最上の快樂は自己を樂しませんさせず他人を樂しませんさするより起る事を御見出しなさるゝならんさ存候もし御疑ひなさるゝ方あらば實地御經驗あれよ。

交詢

●神戶KN生　昔し九州地方に行れし繪踏の事、其年代は詳ならねど、正保慶安の頃か、何れ德川將軍家光の末世或は家綱の代より初まりしをなるべし、傳に云ふ宗門改めの時之を用ゐ奉行の目前にて諸人に踏み渡らしめたるもの也、現品は上野博物局にあり、楕圓形にて長八寸位、巾六寸位、厚さ一寸位、眞鍮にて造る、打出のやうなり、博物局には大小六七面ありしやうなるが、皆な盆の如き形にて表に人物の形あり、蓋しクリストかマリアの像なるべし、之を踏ませたる者也。

●高橋鐵君　吉野山花さく比の朝なく〱心にかゝる峯の白雲の歌の事、作者は仰せの通り佐川田喜六なり、本姓高階昌俊さ云ふ山城淀の人なり吉野の山中に隱遁せし人物ゆへ此の歌をよみしなり、通例「花さく比」のさあれども、諸本に「花まつころさ」有るをよしさす、下の句心にかゝるさあるに打合して見れば、まつさ云ふ方面白し、此歌の事は大和名所圖繪及び梅園雜話(版本なり)續畸人傳などに委しくあり就て見るべし、此歌は飛鳥井雅康卿傳奏して後陽成院の叡覽に入れ御感ありしさいふ也、喜六は寬永二十年八月三日死す、年六十五。

●北越想婦　記臆力を增す秘傳云々の事は餘り當にならんやうに思います。

●下野花の家　十七才位の女性へ送り物にする小說云々のお問は、前號に擧たる小說の中でお撰みになるが宜しう御座いましせう。

●きよ子　サツカレーのバニチーフエアも好いですが、先づリツトルウイメンを御覽になるが宜しいさ判じます。

●いつも生　伊勢物語初卷中十六版に「さしごろあいなれうるめやう〱さゝはなれ」のめさ云ふ字の意味何如さの問ひ。元本伊勢物語は多くは二册ものなり。然し新舊古本抄本尤も多し。吾人の所藏一冊物(元文古鈔本)三冊物(並本)三册物(塵長板肯聞抄)五册(刻釋)の類あり。質問の文短簡にして讀み得がたし。更に二三行拔出して問ひ玉へ以來共に其心得にてありたし。但しめさあるは日記物語に妻のこさ又女のことなり。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

撰擧さわぎ

撰擧熱に浮されて氣違の如くに奔走する人は扨て〳〵氣の毒の人間なる哉、好人物を撰擧せんとて盡力するは固より可なり、たゞ己を廣告して何如なる手段によりても議員に撰擧せられんとアセルに至ては、吾人其何の意たるやを知ると難し、左樣の人物にては議會にて右手を擧て一票の代りを爲すに過ぎず、他に何如なる事をも爲し能ふまじ、然らばわざ〳〵手を擧る爲に死力を盡して議會に這入りたしと思ふは抑そも何の望みありての事か、名譽の爲めか、如此き議員等の集りが名譽にもあるまじ、事を爲さんが爲めか、迚も其力量にて事の行わるべしとも思へず、嗚呼世は廣告の時代となれり、蘭谷にかくるゝも香ひ、梅野に棄てらるゝも馥郁たり、人にして何んぞ自づから淑香を發するとを得ざるや。

愛國公黨

今に至りて結黨式を行わぬは男子の事にあらずと、此の男子〳〵の文句しきりに同黨員の口の端に上る也、聽くならく其の黨内には女權論者多しと、何卒好事業を以て唯り男子の專有の如くに言ふらす勿れ。

賽の河原

說法に云く、賽の河原には子供等が石を積むよし、僅かに數寸を積み重ぬれば鬼忽ち出で來りて之を崩すと、今日の雲行はまた〳〵荒もやうの由、云く雜踏政畧、云く强硬政畧、云くサアベル政畧と、さま〴〵名の代ると共に品も代り、漸やく搭を組立るかと思へば俄然として直ぐに顚覆する也。

町奉行と町人

下谷區及び京橋區の公民は府知事に對して手强き談判を爲し居る也、平民の元氣よきは國の爲に賀すべきとと云ふべし。

文部大臣

榎本文部大臣は、數多の攻擊を受けしにも係らず尙ほ儒敎主義を言張らるゝ由、儒敎決して惡しきものにあらず若し之を生かせて用ゆるときは効なきにあらねど、惜しひ哉儒敎には本來生命なき也、大臣此の死物を活かさんとするよりは小學令の事までも早く盡力せらるゝ方宜しかるべし。

モリス夫人貴婦人社會に基督敎を傳道す

曩に本誌に肖像を掲げたるモリス夫人は、此頃ろ府下に於て主なる貴婦人を集め、基督敎を傳へられたり、殊に大山伯爵

夫人は米國に於て受洗したる信徒あるをもて此際モリス夫人の爲に大に盡力し、種田成子夫人は專ら通辨の勞を執られしよし、今同夫人よりの通信を左に掲載す。

上略……過日來參會の模樣概略左之通り申上候今般來遊のモリス夫人の主なる目的は貴婦人社會にキリスト敎の說話を致され度由にて去る十八日(金曜日)午後二時より大山伯邸に於て同夫人の盡力により數名の婦人來集致候其人名(伯後藤夫人伯大山夫人子榎本夫人同樺山夫人同淸岡夫人同吉田夫人男井上夫人渡邊洪基夫人渡邊孝夫人榊谷夫人戶山夫人辻夫人牧野夫人岩村農商務大臣夫人花房夫人三島令孃等都合十六名に御座候不熟ながら妾儀通辨致し說話の次第は第一貴婦人に面會するの喜びを述へ當地本鄕病院並に慈惠醫院縱覽の事同氏本國に於て主にミストルモリスの盡力に由り成立Charity hospital Insane hospitalの模樣米國婦人の監獄署より出獄の婦人を救ふ事並に傳道會社の婦人東洋の爲め盡力の模樣等夫より此世の樂しみ即ち婦人の主に裝飾而耳に心を用ひ或は夜會或は舞踏などにて精神を樂しませんとするも決して心に滿足し平和を保つ事能はず唯人間の精神に樂しみと平和を與ふる者は誠の神に隨ひ乃ちキリスト敎に依らずんはあらず右は同夫人自身多年の實驗に由る事等にて散會せしは午後五時なり其後去る月曜日鹿鳴館に於て午後三時より再び御婦人方の集合を約し同日說話の摸樣は第一神の性質幷に三位一躰の關係神は見る能はざる物神は全智全能、此世に神より隱れる物はなき事神の此世を愛し給ふ事は獨りの御子を降し玉ひし事聖靈の導き等にて來會の各婦人に新舊兩約の美麗なる聖書　贈り閉會は午後五時半なり同日は同氏一行「ミスヘインス」令孃及ホイト子夫人臨場あり猶同氏一行は昨廿二日京坂地方漫遊の爲め九時四十五分の滊車にて出發凡三週間の見込何れ歸京の後再び集會を開かるゝ筈に御座候先は貴意により鈍筆を不顧申上候間宜しく御判讀の程伏て願上候當日來會ありしは伯後藤夫人同大山夫人子榎本夫人同淸岡夫人同吉田夫人男井上夫人岩村夫人外山夫人渡邊洪基夫人渡邊孝夫人柳谷夫人花房夫人有馬夫人志田夫人益田令孃笠原令孃の諸氏に御座候艸々不悉。

女界新客

女學界又々新入の客を得んとす、代言人角田眞平君、禮家小笠原某君は、新たに女學校を設けたり、然るに森林太郎、石橋忍月、久松定弘、大橋素六郎、の諸氏は來る十五日より閨秀新誌と云へる女學雜誌を月三回づゝ發行せらるゝ由、曩には「國の基」滅して坐ろにさびしく感じつるを、近時又追々に新らしき友を得て喜こびに堪へず。

通信

埼玉縣川角村禁酒會

同地に名望ある人にして醫士小室潜庵と云ふ人あり性來非常の大酒家なりしが同氏は安藤太郎氏と緣親あるを以て先年安藤氏布哇に於て禁酒會を設立せらるゝや直ちに禁酒會規則幷に主意書に添ゆるに縷々たる勸告文を以てせられたるに同氏大に悟る所あり斷然禁酒して布哇禁酒會の一人となられたり今年に至りては益々禁酒の必要を感し數週前より單獨にて近隣五ヶ村を遊說せられしに應する者三百有餘名に及べり(或る人は氏の熱心を見て狂氣せりと云へりとぞ)依て大日本禁酒會埼玉縣支部を組織し去る十五日其發會式を執行せんが爲東京なる安藤太郎氏へ臨席を乞へり因て安藤氏去る十四日美山貫一安藤文太郎潮田千勢の三氏を伴ひ川角村小室氏宅へ赴けり氏の門には大日本禁酒會埼玉縣支部の看版を懸け內には已に數十名の人々集りて諸氏を歡迎せり其夜發起人の諸氏五六十名も來會あり安藤美山潮田三氏の奬勵演說あり終て一同親談熟話時の移るを知らざりし翌十五日開場を同村小學校に會し大日本禁酒會埼玉縣支部と記したる白旗數流を飜へし數十の鄕燈をつるし式場能く整齊せり午前九時より發會式を開き發起人諸氏の談話會あり午后一時より禁酒演說會を開く聽衆は遠きは七八里近きも二三里の所より集まりしもの凡そ五六百名初めに小室潜庵氏開會の主意を述べ小學校敎員某氏祝

詞を朗讀し終つて安藤太郎美山貫一安藤文太郎潮田チセの四氏滔々飲酒の大害を辨ぜられしに五六百名の聽衆は勿論臨監の警官に至るまで非常に感動し始終肅然さして說の切なる所に至る每に唯だ拍手の聲響く如きのみ終へて安藤氏自ら數百の會員に記章を與へ五時頃散會せり實に此の如き盛會は同村に稀なることなりさ且つ會員には郡村の役員學校教員は無論名望ある人士も多く加はれり同夜小室氏宅に於て發起人諸氏の企にて基督教演說會を開きしに聽衆八九十名安藤氏は馬太傳十一章廿八節を題として自己の經驗に照し神の廣大なる愛を熱淚を揮て說かれしかば聽者一同寂として所々に嗚咽の聲を聞くのみいたく悟覺したる摸樣なりしさ今や各地廢娼の運動は活潑になり今又當地に禁酒の一大組織を見んさす眞に國家の爲に賀すべきなれば聊か其實況の萬一を報ぜん(東京禁酒會員)

靜岡矯風禁酒會

拜呈陳者本月　日當地禁酒會の摸樣大略報導仕候へ共以後規約七條を定め十八日第三金曜日午後七時半會堂にて初會を開き小林牧司の祈禱を以て始め英國宣教師「カッシデー」氏の禁酒論小林牧司の洋酒の害なる演述ありて當夜會せしもの百八十名許入會者十八名之を先の會員百二十二名に合すれば總計男女百四十名さ相成候尙今後月々一回集會する積りに候間其時々通信可仕其後の略況並に規約書遲延ながら報導仕候

靜岡矯風禁酒會

第一條　本會は靜岡矯風禁酒會さ稱す

第二條　本會の目的は道德を脩め社會の弊風を矯め飲酒を禁じ社會全般の幸福を進むるにあり

第三條　會員たらんさ欲するものは住所氏名を記して本會事務所に申込むべし或は便宜會員の內に申込も妨なし

事務所は假りに靜岡市江川町六十番地に置く

第四條　會員轉居又は氏名を改稱せしさきは速に事務所に通知すべし

第五條　本會に左の役員を置く

會頭一名　副會頭一名　會計二名　書記一名

第六條　本會の集會は例會さ大會の二つに別て例會は每月第三金曜日吳服町會堂に於て之を開き大會は三月九月の二期に開く會場は其時に公告すべし

第七條　本會は別に會費を要せざれども會の運動の爲に費用を要するさきは臨時隨意の寄附を受くべし(同會書記報)

大坂婦人會、貧院

拜啓陳ば今より二年前小妹等大坂約翰教會婦人會信徒團結して一會を起し名けて約翰婦人會さ稱し專ら博愛慈善の事業を社會に實行することを目的さ致し候、昨年十月バザー市を開らき數百圓の收得あり其一半は教會堂新築費の內に寄附し他の一半を以て慈善事業を起さんさて十一月に約翰婦人會事務所を兼て一屋を借り貧兒數名を救育致し申候今年に至り更らに規摸を擴張し竟に貧院の組織さ爲し申候而して此貧院は天父の聖旨を地に爲さん爲め日本に在る基督教會の光榮さして世に立んことを期す浪花教會員保野ヤス女は故澤山牧師の病床に侍すること數年親しく其薰陶を受け篤信忠愛の聞へ高く且兒女保育の經撿ある老女なるが少妹等の擧を深く贊成せられ蹶然百事を抛て來り助け全く貧院の事業を負擔して熱心に盡力せらる且約翰婦人會會員は來る五月十日午后六時半より大阪土佐堀青年會堂に於て慈善大音樂會を催ふし西京大阪神戶等より內外音樂士を聘し其收入金は悉く擧て該貧院に寄附し其擴張の資に供するつもりなれば大坂に在る兄姉方の續々來聽あらんことを望む(神戶キヌ女)

附言。右貧院の目的事業及維持法左の如し、

一本院の目的は社會に於ける婦人の義務を盡さんため博愛慈善の事業を採り本院の資力の許す限り貧民孤兒を救助教育するものさす

一本院は實情憐むべき貧民孤兒あるを聞かば約翰婦人會役員會議にて之を議し決議の上引受人の保證書を取り入院を許す

一入院者にして無職業なる者には適當の職業を敎へ漸次自治の方法を授くるものさす但し時宜に由り少額の資本を與ふることあるべし

一小兒は滿六歲より十一歲に至るまで小學校に通學せしめ普通の教育を受けしむ

一小兒漸く成長するに從ひ本院は之に職業を授け或は親元さなり將來目的を立て得べき家に奉公せしめ衣類其他必要の物品を仕送るべし

一本院は每週教師を聘して入院者に修身道德の談話を聽かしむ

一本院は約翰婦人會の寄附金さ江湖博愛の士女の寄附金さを以て維持するものさす(同會書記報告)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廢娼記事

●今日の廢娼演說　午后一時より上野廣小路上廣亭に於て、廢娼演說あり、傍聽無料にて、名出保太郎（一步を轉ぜよ廢妾藝妓論者）田井正一（廢娼か廢妾か）黑岩周六（諸兄姉に告ぐ）イビー（英國廢娼の沿革）諸氏及び巖本の廢娼論の必要の演說あり。

●廣島に於ける廢娼論　安藝の國廣島は前年縣知事の盡力によりて遊廓を宇品町に移し漸次排斥の主義を執り居られし由なるに此頃に至り再び此地に二ヶ所の遊廓を新設致したき旨出願するものあり於是土地の有志者大に奮發する所あり本月第一の本曜日に同地今堀基督教講義所にて又次の土曜日には同細工奥以教會堂に於て廢娼演說會を催ふされ廢娼の一日も猶豫すべからざる所以况や新に創設することの甚だ謂なる理由等を痛論せられしが聽衆も堂内に充滿して好結果を得られたる趣なり此時神戶廢娼同盟會員中野氏も來會し居られて頗る力を添へられ遂に遊廓設置不認可の建白書を不日呈出するとに贊成する者多く目下夫々捺印中なる由。

●勸告文配布　下谷青年會員は每日曜朝四時會堂に集りて祈禱し夫より吉原に三會廓を配布す、又廢娼壯年義會員は本誌前號に揭げたる青年悔改めの文を印刷し配布せんとて盡力中のよし。

女報

○女子の洋行　日本橋區馬喰町に寄留する福岡縣平民齋田光次郎氏の二女みつ子（十五）は教育學修業の爲め向ふ六ヶ年間英學に留學するに付き去る廿六日旅行券下附の儀を外務省へ願ひ出たる由。

○橫濱禁酒會　去る廿六日橫濱北方饑砲場に於て小年禁酒會の發會式を兼て運動會を開きたり同會員及橫濱、老松、簪甌、山內、戶部、吉田、眞砂の諸學校及山手英和學校生徒等合計一千二百餘名當日正午十二時埋堝公園内に集合し零時三十分整列して會場に進行し午後一時より發會式を執行したり始に君ヶ代の唱歌、古莊三郎氏の祈禱、寺尾亨氏甫守謙吾氏及各學校生徒等の祝辭及演說等ありて皇國の唱歌を以て式を終り暫時休憩して茶菓を喫し夫より運動會を開きたり遊戲には徒手競走、戴嚢、障碍、擊劔、打毬、鉢卷奪、綱引等ありて五時散會したり其中最も衆人に感動を與へたるは橫濱學校の生徒の禁酒軍隊行進なり。

○伊豫今治　同地近頃の新現象は、基督主義、及び佛教主義、の二つの婦人會が、暑ぼ競爭の姿にて負けず劣らず運動するの一事なり。一を今治佛教婦人會と云ふ創設者は悉とく男子なれども、會の目的は佛教の主義を以て婦人の要務殊に全德を修養するに在り。他の一を今治婦人俱樂部及び夜學會とす、其目的書には日本帝國の婦人として家政上又社會上に對する改良進步を謀るを以て目的とすとあり、主も婦人の發起にして亦た全く婦人のみの力にて運動するよし、夜學會は右の俱樂部に屬するものにて、每週月火の兩夜二時間づゝ英語編物を教え兼て交際家政の方を敎ゆるにあり入費は月に三錢のよし。

○今昔の差　先年レビット夫人が來遊せられ厚生館にて演說をなしたる後夫人は禁酒會を發し之を組織せんと欲する者は名刺を差出されんとを乞ひたるに僅に五人のみなりき（元良博士の夫人よれ子、潮田ちせ子、及帝國大學醫院の看護婦三人）然るに今回アッケルマン孃の來遊せられて同じく會員を募るや東京のみにても四百四十八人を得各地至る處幾千人の同意者あるを見る吾人之を見て起たざるを得んや。（禁酒雜誌）

週報

○官令　二十六日官報號外を以て法律第三十二號商法を發布せらる

○宮廷　二十一日天皇陛下吳港へ御上陸鎭守府へ臨御同日皇后陛下畝傍山東北陵並に後醍醐天皇御陵へ御參拜あらせらる●二十二日皇后陛下橿原神宮、綏靖天皇御陵御參拜●廿三日天皇陛下吳、江田島御巡幸滑なく濟せられ江田島御發艦あらせられたり同日皇后陛下法隆寺へ行啓●廿四日皇太后宮第三內國勸業博覽會へ行啓同日皇后陛下舞子御旅館へ御安着●廿五日天皇陛下佐世保へ御着艦同日皇后陛下京都へ還啓●廿七日天皇陛下神戶御着艦廿八日京都へ還幸あらせらる

○政治　二十二日內閣會議に山縣、山田、松方、大山、榎本、後藤、青木岩村の八大臣參集せり●廿五日板垣伯上京●廿五日內閣會議に山縣、松方、榎本、岩村、山田、大山、青木の各大臣は參集せり

○會社　廿八日兩毛鐵道會社は定式總會を開き昨年十月より本年三月に至る半季間の報告を爲せり

○叢報　廿七日下谷區民有志者は上野廣小路上廣亭に會して鉄道事件の協議會を開けり

遞信省認可
女學雜誌第二百十一號附錄

增補第一

女學書類目錄

東京麴町區富士見町二丁目一番地
女學雜誌社

一 女學書類大略下の如くに候へども此外尚ほ洩れたるも多く可有之、且つ追々に新版相成者も御座候、如此きは言ふ迄もなく其他何書にても、其版元の番地姓名及書名を明記して注文なされ候はゞ早速取次可申候。

二、購讀すべき書物の適否を問合されたき方は切手二錢封入し何如なる程度の書を要するやを記るし申込るべし早々返答可仕候事。

三 代金は通運便又は小爲替にて麹町郵便局宛に送られたし郵便局なき地に限り一錢切手二割増にて勘定せられても宜しく候事。

四 定價といへども時々變わると有之候、左記の高によりて送金あるとも若し更に直段の引けるときは殘金計算の上へ返却可仕事。

五 書籍に限らず、凡そ女子に入用の品物は随分お取次可致事。

六 右書目錄御入用の方は二錢切手封入御申込あらば差上可申候。

東京麹町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

印刷者 井上藤平

印刷所 秀英舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學書類目錄（補増一）

内藤正明氏著
開化小學女日用文例 大本一册 價金四十五錢 九十七葉

宮内省御藏版
婦女鑑 大本六册 價金一圓 二百六十六葉

東海散士著
東洋之佳人 大本一册 價金二十錢 十四葉

結婚の枝折 中本一册 價金四十錢 百四十六頁

船越鼎太郎著
産婦小兒攝生法 中本一册 價金十八錢 四十三頁

日本婦女の地位 小本一册 價金十錢 廿四頁

婦女實業案内 中本一册 價金五十錢 百四十八頁

女用消息文 上下二册大本 百廿二葉

婦女の教育 大本三册 價金六十錢 百五十葉

産前産後 中本一册 價金五十錢 百十六頁

日耳曼國紳士貴孃婚姻事情 中本一册 價金二十錢 八十頁

婦人及び家政 小本一册 價金十錢 百六十四頁

俣野時中氏反譯
女子教育論 中本一册 價金四十錢 百四十八頁

末兼八百吉
日本情交之變遷 中本一册 價金四十五錢 百九十頁

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

陸軍將軍大矢森之助
明治之細君　中本一册　價金八十錢　百八十六頁

奈良惠子著
交際論　中本一册　價金三十五錢　百三十四頁

田邊龍子著
藪の鶯　中本一册　價金三十五錢　百十頁

鈴木弘恭
女子穎才集　中本一册　價金十六錢　四十二葉

日本女子進化論　中本一册　價金五十錢　二百六十六頁

依田孝氏著
經圖基本　一夫一婦論　中本一册　價金三十錢　百八頁

杉山藤二郎著
女權美談文明の花　中本一册　價金五十錢　百六十二頁

醫學士賀古鶴所譯述
產婦備用　中本一册　價金四十錢　九十頁

片岡のぶ子譯述
西洋女大學　中本一册　價金四十錢　九十八頁

住田頼之助譯述
西國婦人立志篇　中本一册　價金七十五錢　百六十二頁

小中村義象氏
荻野由之助氏著
國學和歌改良論　中本一册　價金二十錢　六十頁

大和田健樹氏撰集
詩人の春　小本一册　百四十一頁

佐々木豐洲女史
婦人言論の自由　中本一册　價金十錢　二十九頁

田村直臣氏著
米國の婦人　中本一册　價金三十錢　百五十五頁

足立寛氏著
日本赤十字社篤志
看護婦人會教程　中本一册　價金卅五錢　二百廿一頁

川俣英夫纂譯
躰育美貌論　中本一册　價金七十五錢　二百三十頁

栗塚龍女史抄譯　女子必携　中本一冊　百五十六頁　價金四十錢

湯淺はつ女史編輯　倫理の基　小本一冊　三十四頁　價金二錢

高橋義雄著　梨園の曙　中本一冊　二百卅二頁　價金六十錢

巖本善治抄譯　女の未來　中本一冊　百十二頁　價金三十錢

田中智學氏演說　佛教夫婦論　中本一冊　百廿頁　價金廿五錢

鈴木金治郎編輯　新編明治毒婦傳　中本一冊　四百七十四頁　價金一圓五十錢

下田歌子編輯　和文教科書　各帙　價金五十錢

小池民治 高橋秀太 編輯　家庭教育　中本一冊　百二十頁　上製四十錢　並製廿七錢

田中登氏編著　女學讀本　中本一冊　五十葉　價金二十二錢

久松定弘君反譯　女子高等教育論　中本一冊　百六十二頁　價金六十五錢

井上勤氏抄譯　細君ノ友　中本一冊　二百十三頁　價金五十錢

色情哲學　中本一冊　百七十七頁　價金六十錢

新粧の佳人　中本一冊　三百六十二頁　價金六十五錢

歐米男女禮法　小本一冊　九十一頁　價金二十錢

婚姻論　中本一冊　二百四十頁　價金廿五錢

斯氏女德新說　中本一冊　二百八十頁　價金九十錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界列國の行末　中本一册　價金六十錢　二百卅一頁

景山英女の傳　中本一册　價金十五錢　四十五頁

つれ／＼草講義　大本一册　價金十二錢　二十葉

日本女權沿革史　中本一册　價金二十錢　七十三頁

以下追次增補廣告

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭君述	百人一首講義	一册	價並册五錢 上製五十錢
鈴木弘恭君述	つれ／＼草講義	一册	價十錢
鈴木弘恭君述	文法口授	一册	價十六錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一册	價十八錢
關輪正路君纂	ひめ鏡	一册	價四十五錢
中嶋俊子著	善惡之岐	一册	價卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一册	價廿五錢
嶋田三郎植木枝盛合述	廢娼演說	一册	價五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一册	價五錢
島田三郎巖本善治同著	公娼可滅	一册	價四錢

明治廿三年五月三日印刷

編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　森田登

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

女學生

編輯組合

櫻井女學校。跡見女學校。成立學舍女子部。海岸女學校。新榮女學校。頌榮女學校。女子獨立學校。明治女學校。長榮女塾。東洋英和女學校。青山英和女學校。女子神學校。横濱二百十二番共立女學校。同フエリス和英女學校、其他組合續々申込中。

女學生は各女學校文學會の中心となり、記錄となり、廣告となり、尚ほ其奬勵者たらんことを欲して、世に出んとす。女學生は、社說に於て女學生の爲めに學藝上の論說を掲げ。文欄には、各女學校の文學會より撰出寄送せられたる文章詩歌書英文等を集錄し、且つ其の籠頭欄に一々社評を加へ。評林には、右各文章に對する世上讀者の寄評を掲げ。寄書には一般女生の寄書を收め。報告には各文學會の報告を載せ。別に講武の一欄を置て女性に武道女德を修練するの工夫を敎ゆ。

各女學校文學會あらざるはなし、而て其の思の外に隆盛ならざるは、其の奬勵刺激の足らざるが故にて、扨て其の奬勵刺激の足らざるは事內に滯りて外に發表することなきが故にある也、本誌「女學生」は此大欠點を補ふが爲に出生す、各文學會の美粹之より一々世上に滿開し、閨秀をして空しく世の埋木たらしむるはあく、且つ看者の一是一非悉とく其下に集るときに於ては、亦是れ女生三省の好材料となるべし。

女學生一冊定價五錢五厘、郵税五厘、每月廿日發行、躰裁國民の友大、紙數凡そ三十頁以上。

五月廿日 第一號發兌

女學雜誌社

農學士寺尾熊三君著

植物學 全一册

價金十二錢　郵送料二錢

百花咲らひ葉青く茂るの時、恰かも是れ植物學を修むるに最好の時なり、寺尾君特に女流獨學の爲に尤も平易簡畧に植物學の大躰を講述ありぬ、西洋の婦人は植物を採ねて標本を造ることを以て一の樂しみとするもの多し、至つて面白く且つ價多きの樂と云ふべし、此書則はち如此き婦人及び最も早分りに植物學の大躰を知らんとする人々の爲には最好至適の書ならんか、故に今の春時に當りて特に讀者の一讀あらんことを望む

明治廿三年四月

女學雜誌社

第二回夏期學校廣告

本年ノ夏期學校ハ來ル七月五日ヨリ同十五日迄十日間東京市芝區白金明治學院ニ於テ開ク演說ハ吾國ニ於テ最有名ナル牧師宣敎師其他基督敎主義ヲ執リ社會樞要ノ地位ニアル人々ニ依賴シ來校スル者ヲシテ悉ク大ナル益ヲ得テ去ラシメンガ爲メ大ニ計畫スル所アリ來校者ノ宿所ハ明治學院寄宿舍及其近傍ニ設ク其滯在中ノ入費ハ一人每ニ十日間金貳圓ニ充タザルベシ滊車滊船賃金ノ割合ハ當時其向ヘ相談中ナレバ他日更ニ報告スベシ來校ノ男女青年諸君ハ六月十五日迄ニ其旨ヲ報セラレヨ夏期學校ニ關スル忠告アラバ受ケ質問アラバ答フベシ諸通信ハ明治學院內夏期學校委員ヘ宛テラレタシ

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

○江湖の諸君に雜誌五册無代進呈す

○○○○○○○○○○每月一日十五日二回發行●壹册金四錢五厘
○○○○○○○○○十二册（半年分）前金四十八錢全國無遞送料
○○錦の霞○○○廣告料一行金六錢●總て前金に限る●代金
○○○○○○○○○は爲替にて送れ●郵劵代用は二割增の事

世間に雜誌甚だ多し、然れども未だ少年をして實益を爲さしむるもの殆んど稀なり。我錦の霞は少年諸君の將來尤も必要にして尤も有用なる文章を敎ゆる爲に發行し、斬新なる論説流暢なる文章其他詩歌等を博く江湖の少年諸君に募集し、之を添削して掲載し諸君が師に就かずして文法を練磨し、詩句を知得しうるの便を計れり。請ふ天下の少年諸君よ、早く本誌を讀み速に詩文を投じて、智識を交換し、文章を練磨し、自身が利益を求めたまへ其九號は五月一日發兌せり、、、、

○注意本月十五日發兌の第拾號を祝するため本月十日迄に本誌第六號より以下十二册前金相添へ外に郵税五錢送金せば本誌第一號より第五號迄五册無代進呈候に付此際購讀せらるゝの諸君は實に千歲の奇遇あり

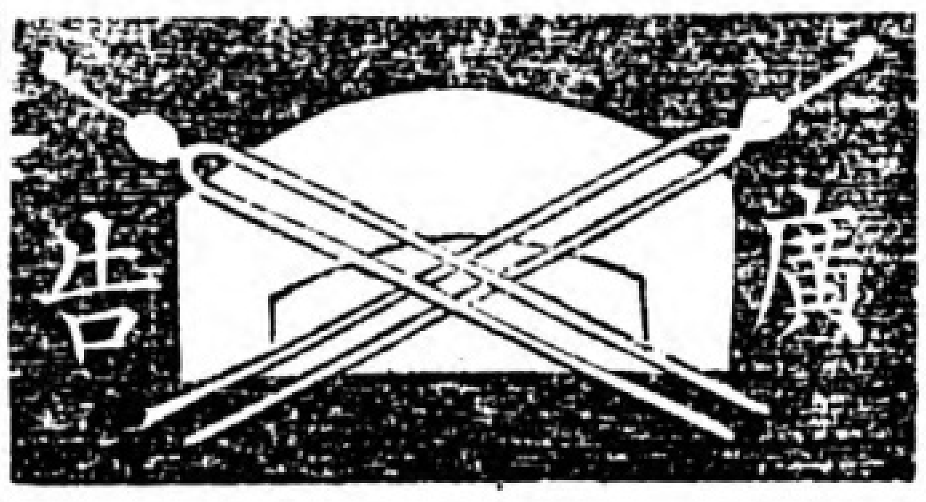
●發行所　東京市本所區小泉町十八番地　文林閣

小兒科診察時間改正

從來ノ小兒科外來患者診察時間午前九時乃至同十一時ヲ改テ午前八時乃至十時トス

明治二十三年五月

本郷元富士町　醫科大學第一醫院



鼈甲珊瑚蒔繪金銀

○御櫛笄簪るゐ　御
○玉並根掛るゐ　儀　櫛
○御櫛笄簪るゐ　式　笄
○御簪指輪るゐ　用　品々

鼈甲類珊瑚珠　問屋

日本橋區堺町通ふきや町　小川專助

定價廣告

一册。	六錢　郵税。五厘（但府內無郵税）
十册。	五十八錢　郵税。五錢（同前）
半年分	一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

一行　（廿七字詰）
一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受くべし
女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

發行所　東京麴町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

○江湖の諸君に雜誌五册無代進呈す

錦の霞

○○○○○○○毎月一日十五日二回發行●壹册金四錢五厘
○○○○○○十二册(半年分)前金四十八錢全國無遞送料
○○○○○○廣告料一行金六錢●總て前金に限る●代金
○○○○○○○は爲替にて送れ●郵劵代用は二割增の事

世間に雜誌甚だ多し、然れども未だ少年をして實益を爲さしむるもの殆んど稀なり。我錦の霞は少年諸君の將來尤も必要にして尤も有用なる文章を教ゆる爲に發行し、斬新なる論説流暢なる文章其他詩歌等を博く江湖の少年諸君に募集し、之を添削して掲載し諸君が師に就かずして文法を練磨し、詩句を知得しうるの便を計れり。請ふ天下の少年諸君よ、早く本誌を讀み速に詩文を投じて、智識を交換し、文章を練磨し、自身が利益を求めたまへ其**九號**は五月一日發兌せり、、、

○注意 本月十五日發兌の第**拾號**を祝するため本月十日迄に本誌第六號より以下十二冊前金相添へ外に郵税五錢送金せば本誌第一號より第五號迄五冊**無代進呈**候に付此際購讀せらるゝの諸君は實に千歳の奇遇あり

●**發行所** 東京市本所區小泉町十八番地 **文林閣**

小兒科診察時間改正

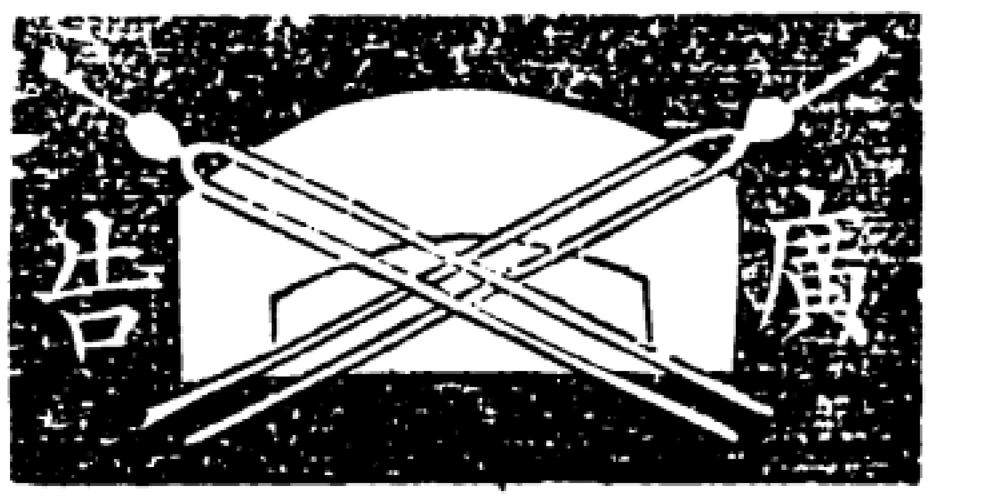
從來ノ小兒科外來患者診察時間午前九時乃至同十一時ヲ改テ午前八時乃至十時トス

明治二十三年五月

本郷元富士町

醫科大學第一醫院

遞信省認可



鼈甲珊瑚蒔繪金銀

○御櫛笄簪るゐ ○玉並根掛るゐ ○御櫛笄簪るゐ ○御簪指輪るゐ

御儀式用 櫛笄品々

鼈甲類 珊瑚珠 問屋 日本橋區堺町通ふきや町 **小川專助**

定價

一册。	六錢 郵税。	五厘(但府内無郵税)
十册。	五十八錢 郵税。	五錢(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は 一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

一行	一回 (廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受くべし女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY